

調査・設計等業務における 総合評価落札方式の実施状況 (平成20年度年次報告(案))



年次報告の作成の目的

本年次報告は、国土交通省における総合評価落札方式の現況をとりまとめ、公表することにより、同方式の普及・拡大、ダンピング防止策、入札契約制度に関する諸課題への確実な対応に資することを目的として作成するものである。

1	平成20年度総合評価落札方式のまとめ	p.3
2	全契約状況	p.5
3	総合評価落札方式による契約状況	p.6
4	落札者の状況	p.7
5	落札率の分布状況	p.10
6	評価項目毎の採用状況	p.13
7	評価テーマの設定状況	p.16
8	評価項目毎の得点率	p.18
9	落札者と評価値が2位、3位の技術点分布	p.21
10	調達方式、配点比率と業務成績の関係	p.22
11	落札者と2位が逆転する価格	p.23
12	平成21年度 総合評価落札方式の実施状況(4~9月)	p.25
13	総合評価落札方式における評価方法の改善検討 (1位満点方式シミュレーション)	p.30
14	参考資料編	p.36

1. 価格と品質による総合的な評価について

・調査件数374件中、技術点の技術点の最高得点者が落札した割合は78.1%であり、**技術競争が優位**な結果となった。

・価格点と技術点の比率について、技術点の比率が高くなるにつれて最低価格者が落札した割合が57.7%から15.8%に減少しており、**技術点の比率が高いほど技術競争が優位**な結果となった。

・落札率の分布状況について、価格のみの競争と比較すると、平均落札率が7.3ポイント高い。また落札率70%未満の落札割合が低く、**70~80%と90%後半の落札が多い**。

2. 評価項目の採用、得点、業務成績の状況について

- ・評価項目は、**全業種とも「実施方針」、「評価テーマに対する提案」に重点**を置いている。
- ・評価テーマの内、**土木コンサル**では「**施工・調査設計に関する技術**」と「**コスト縮減**」が多く、**測量**では「**品質・精度向上**」と「**安全管理**」が多い。また、**地質調査**では「**品質・精度向上**」と「**施工、調査設計に関する技術**」が多い。
- ・落札者と非落札者の得点状況を比較すると「**評価テーマに対する提案**」において**最も差**が生じている。
- ・技術点順位が**1位又は2位の者が約9割落札**している。落札者と総合評価点が2位、3位の技術評価点数を比較するとその差の平均約5点程度の中で競争しており、上位3位までの平均点も45.4点。満点60点の中の**高いレベルで競争**が行われている。
- ・平成20年度の総合評価落札方式の成績評定得点率は 27.1%となった。これは**価格競争よりも1.7ポイント(0.6点相当)高い得点率**となっている。

建設コンサルタント業務等の契約状況
 ・平成20年度の建設コンサルタント業務等の発注件数は15,548件。
 うち、総合評価落札方式は381件(2.5%)。対前年比で約1.7倍に急増。

地方整備局等(港湾空港除く)における契約状況

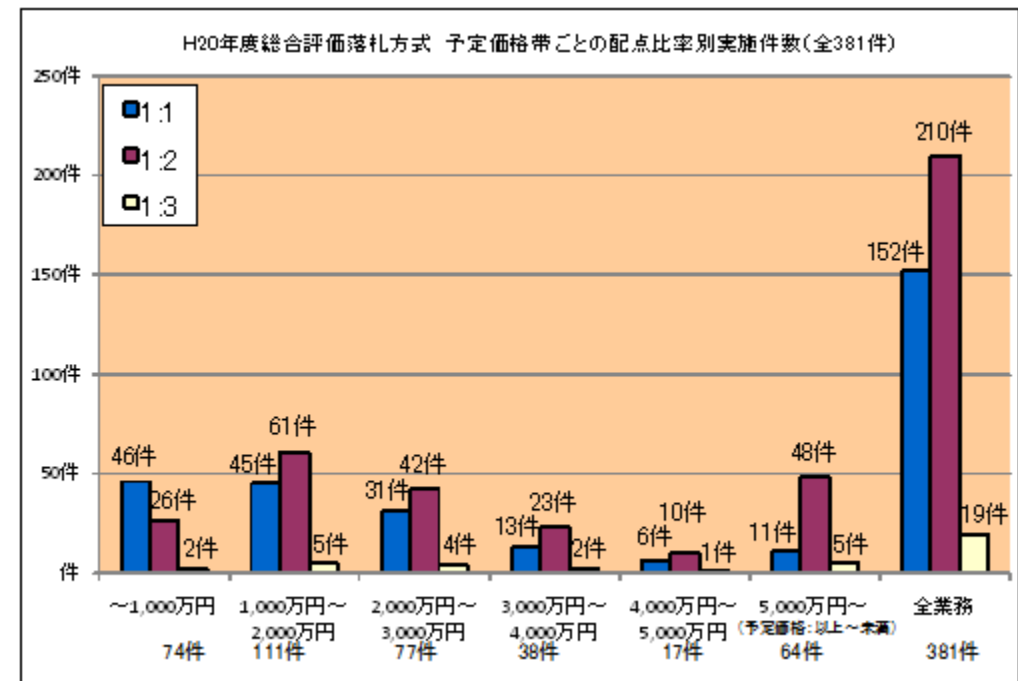
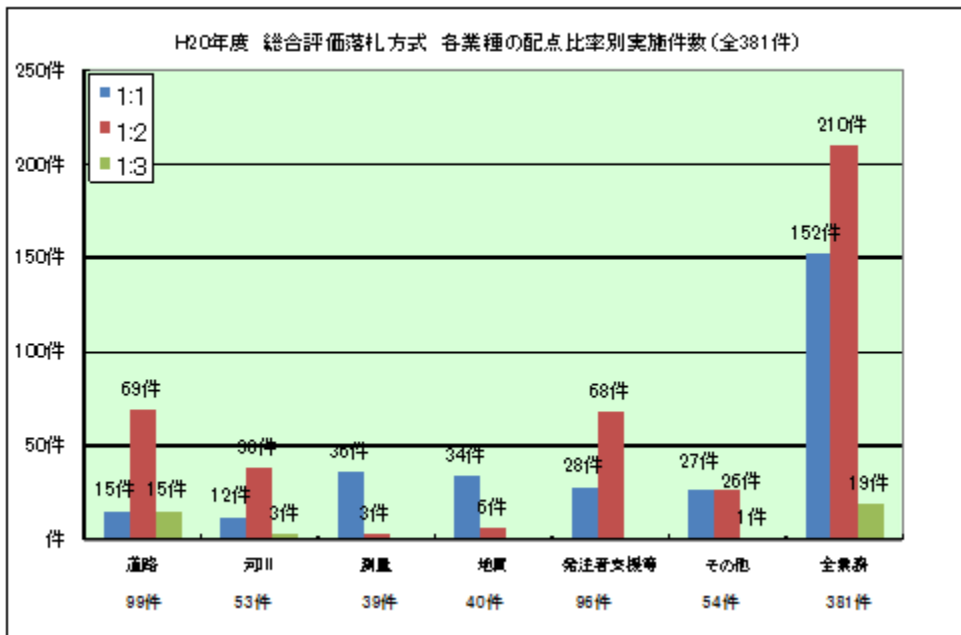
	(件数)	
	H19年度	H20年度
価格競争	(51.5%) 8,910	(48.7%) 7,578
総合評価落札方式	(0.1%) 23	(2.5%) 381
プロポーザル方式	(29.5%) 5,112	(44.8%) 6,970
特命随意契約	(18.9%) 3,266	(4.0%) 619
計	(100%) 17,311	(100%) 15,548

地方整備局等調べ

5業種(土木、測量、地質調査、建築、補償)

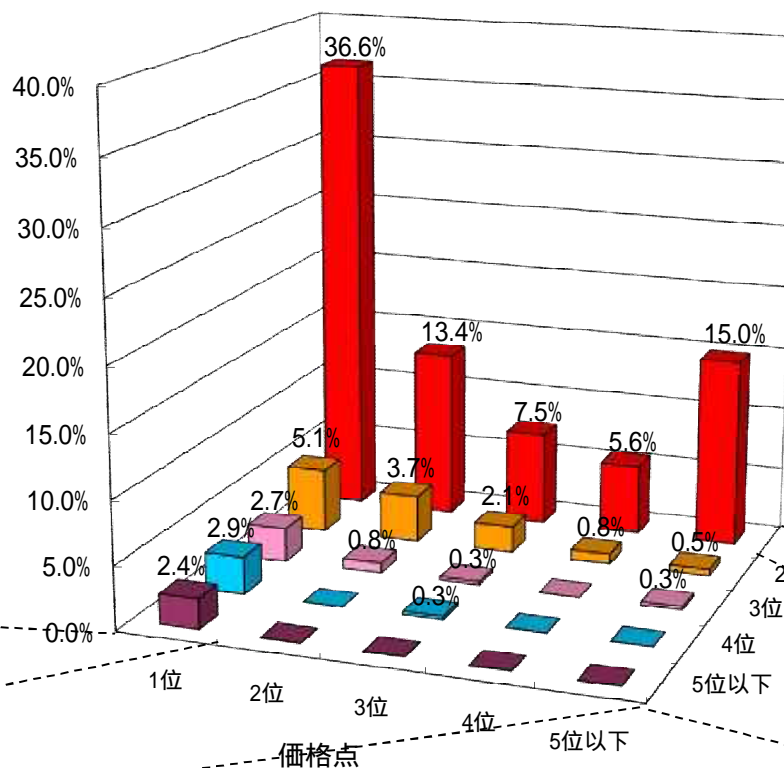
総合評価落札方式による契約状況

- ・業務内容別では、道路 99件 (26.0%)、河川 53件 (13.9%)、測量 39件 (10.2%)、地質調査40件 (10.5%)、発注者支援等96件 (25.2%)、その他54件 (14.2%)。
- ・価格帯の内訳では、1,000万円～2,000万円が111件で約3割を占め最も多く、4,000万円未満が**300件で全体の約8割**を占めている。
- ・価格と技術の比率別では、1:1が152件 (39.9%)、1:2が210件 (55.1%)、1:3が19件 (5.0%)であり、**1:1と1:2両方で9割以上を占める。**



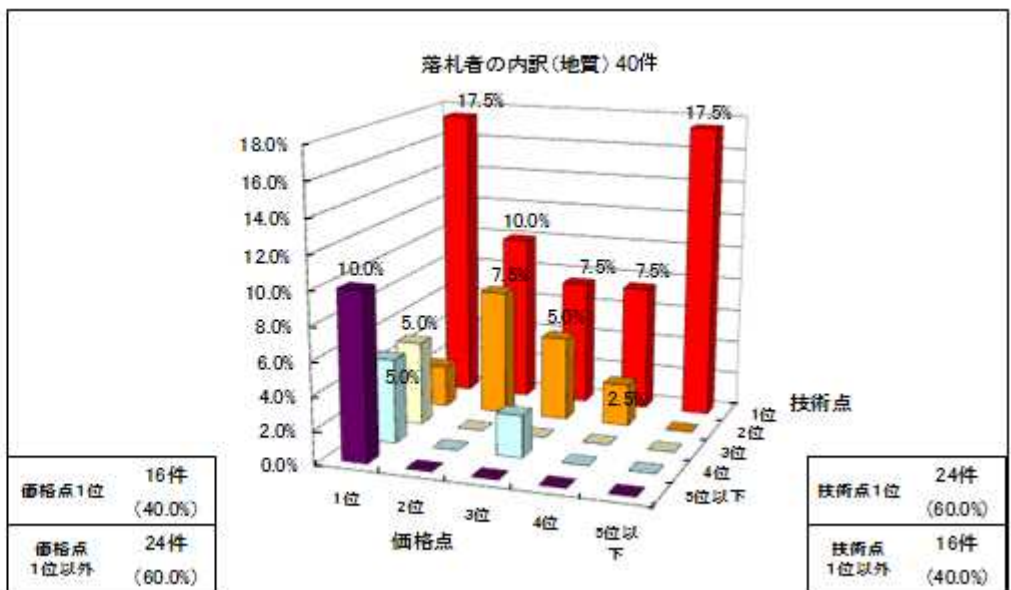
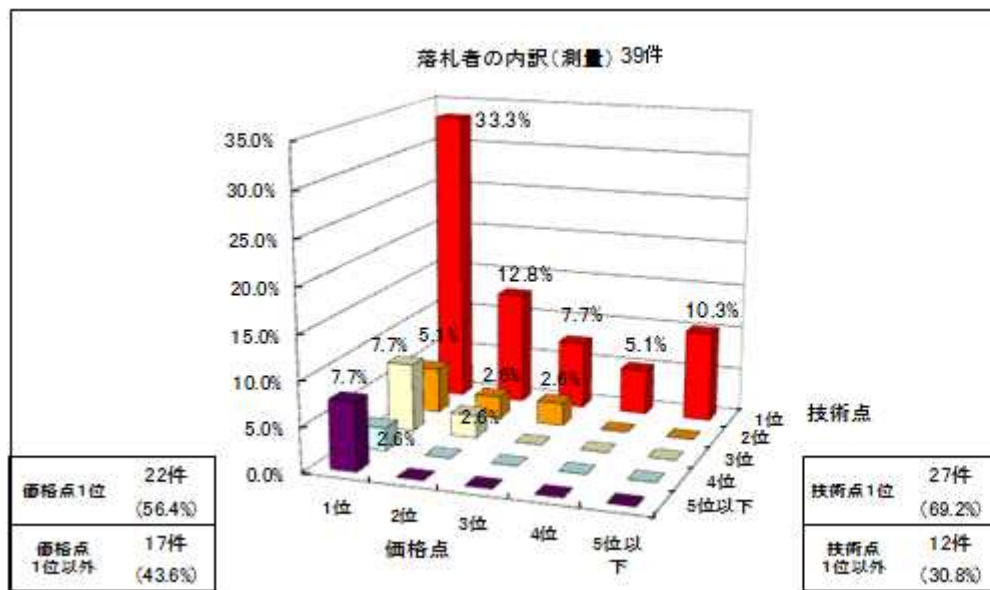
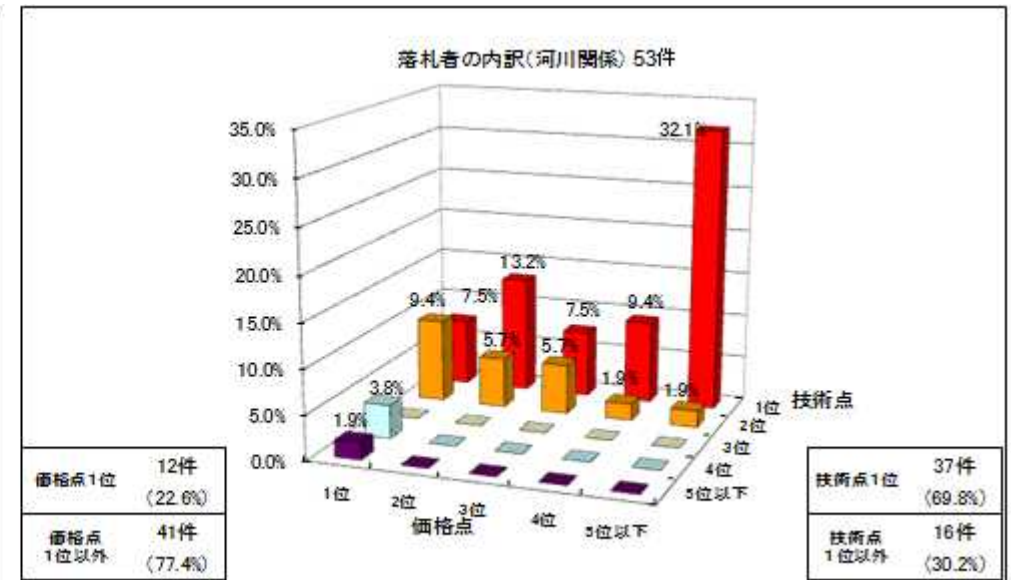
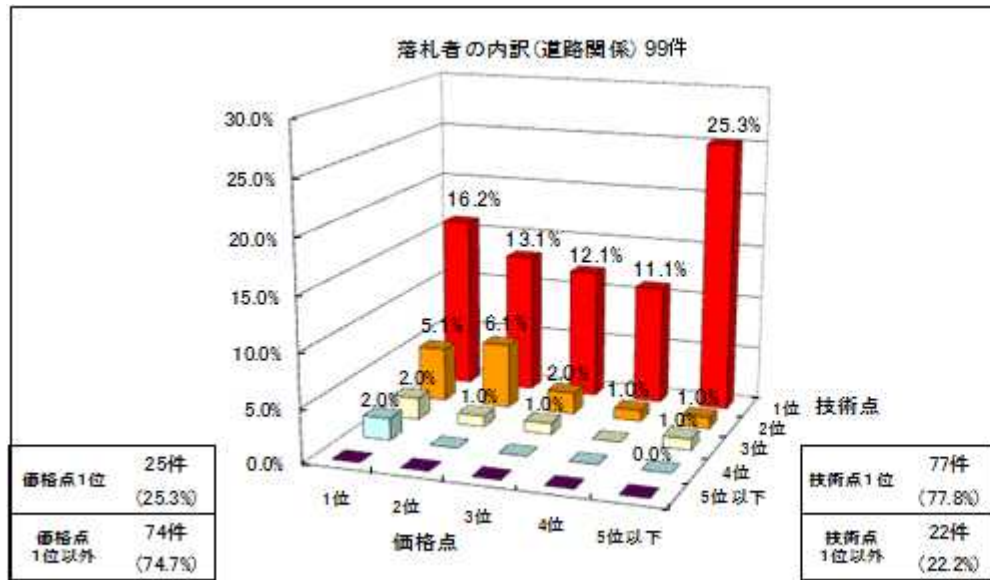
- ・技術評価点の最高得点者(最低価格者以外)が落札した割合は、**155件(41.4%)**。
- ・最低価格者を含め、技術評価点の最高得点者が落札した割合は**292件(78.1%)**であり、**技術評価点による競争が優位な結果**となっている。

落札者の内訳(全業務)



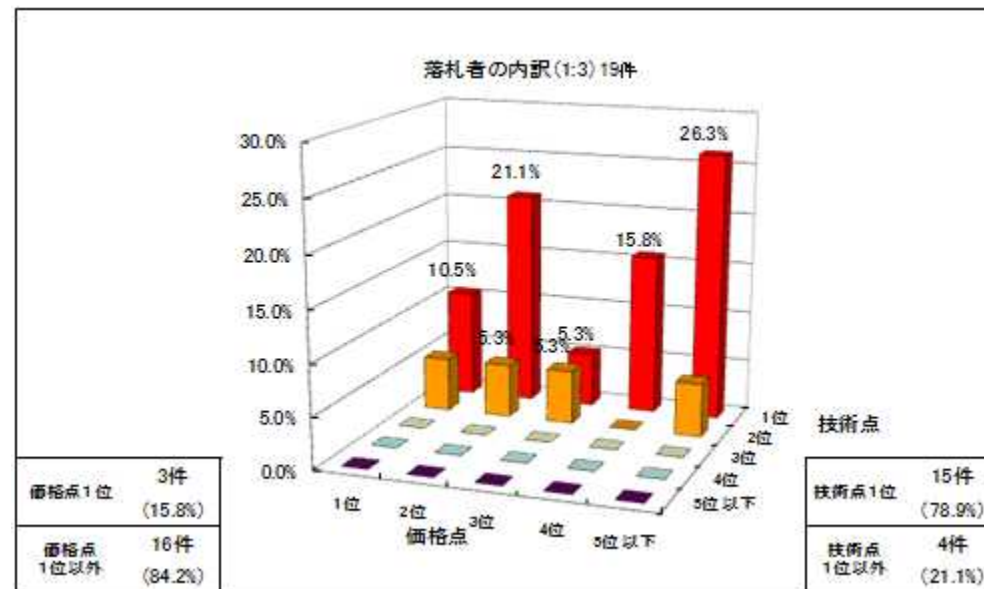
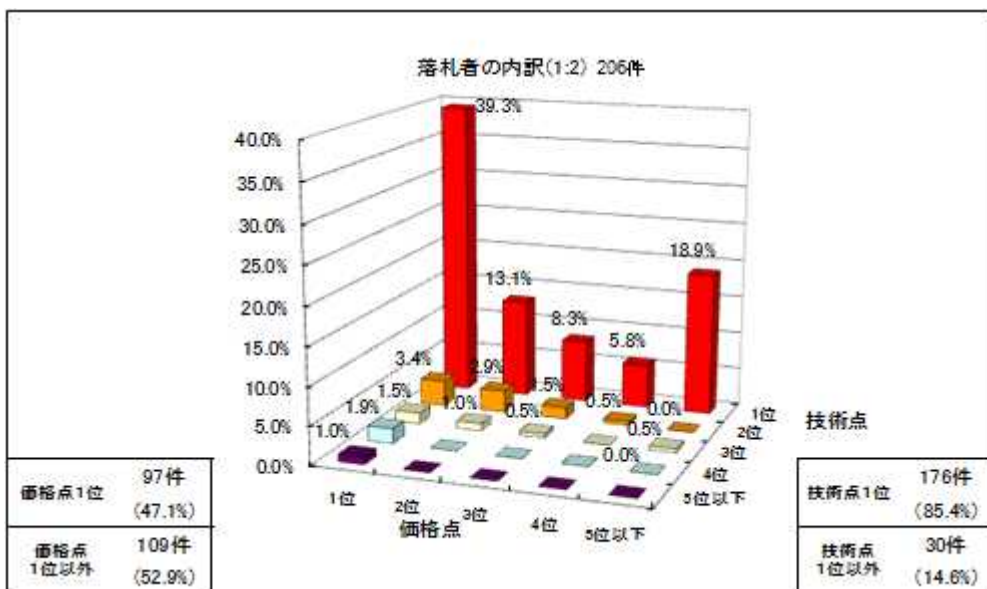
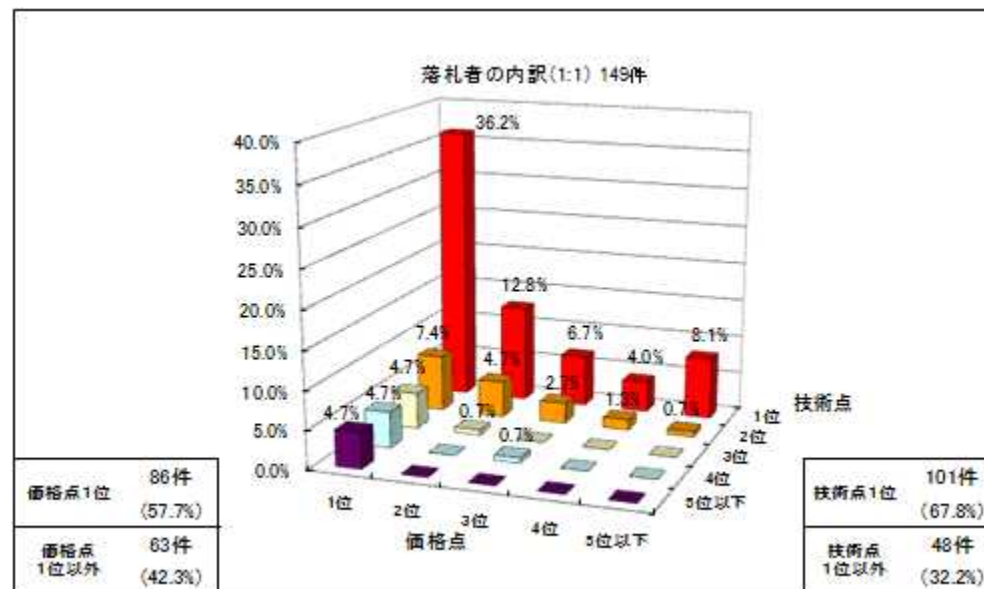
価格点 1位	186件 (49.7%)
価格点 1位以外	188件 (50.3%)
合計	374件

技術点 1位	292件 (78.1%)
技術点 1位以外	82件 (21.9%)
合計	374件



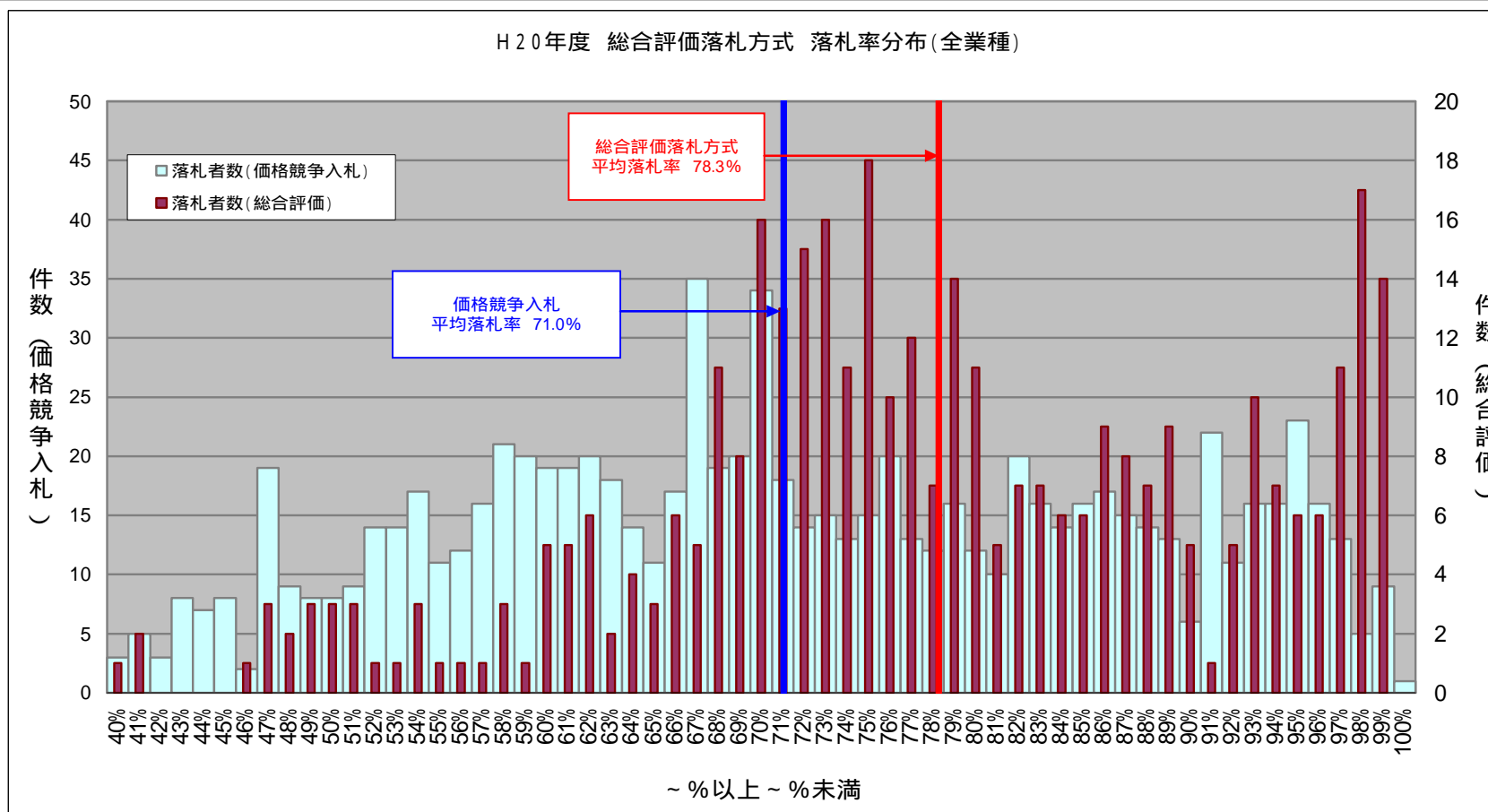
・全比率において、**技術評価点の最高得点者が落札した割合は65%以上**で、1:2と1:3では技術評価点1位の落札が**約8割**を占める。

・技術点の割合が高くなると、**最低価格者(価格評価点1位)**が落札した割合は、57.7%から**15.8%に減少している**。

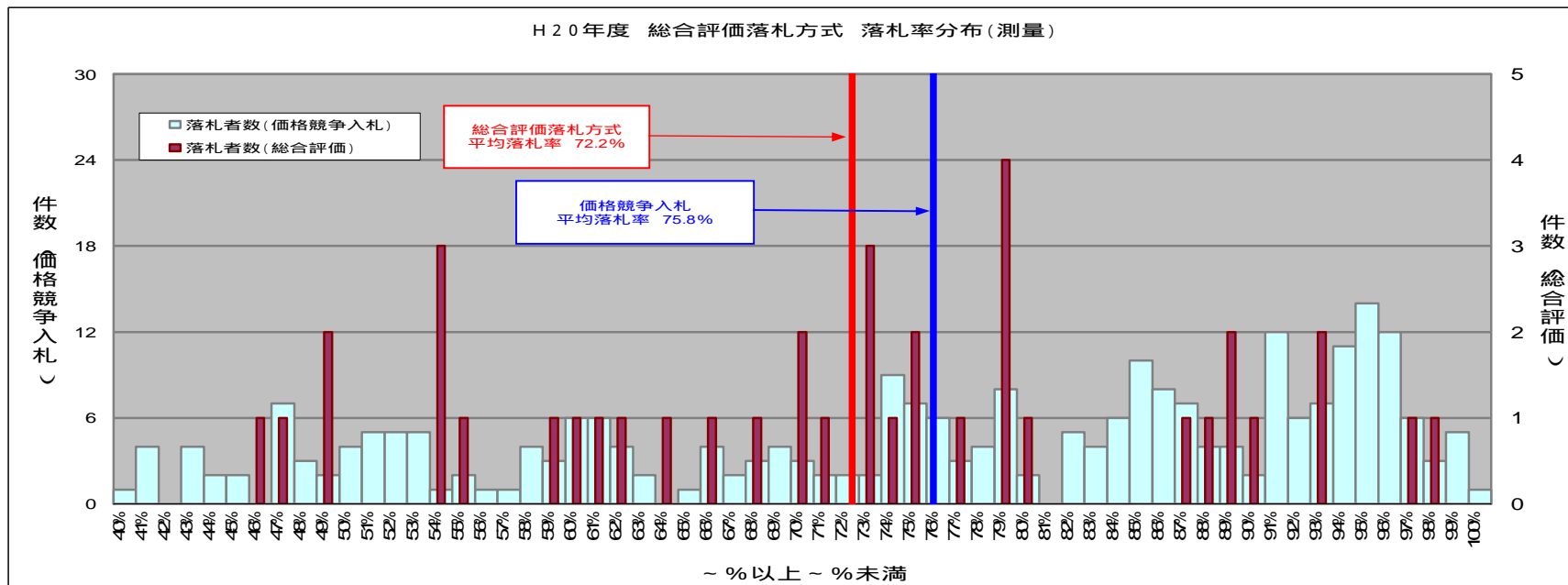
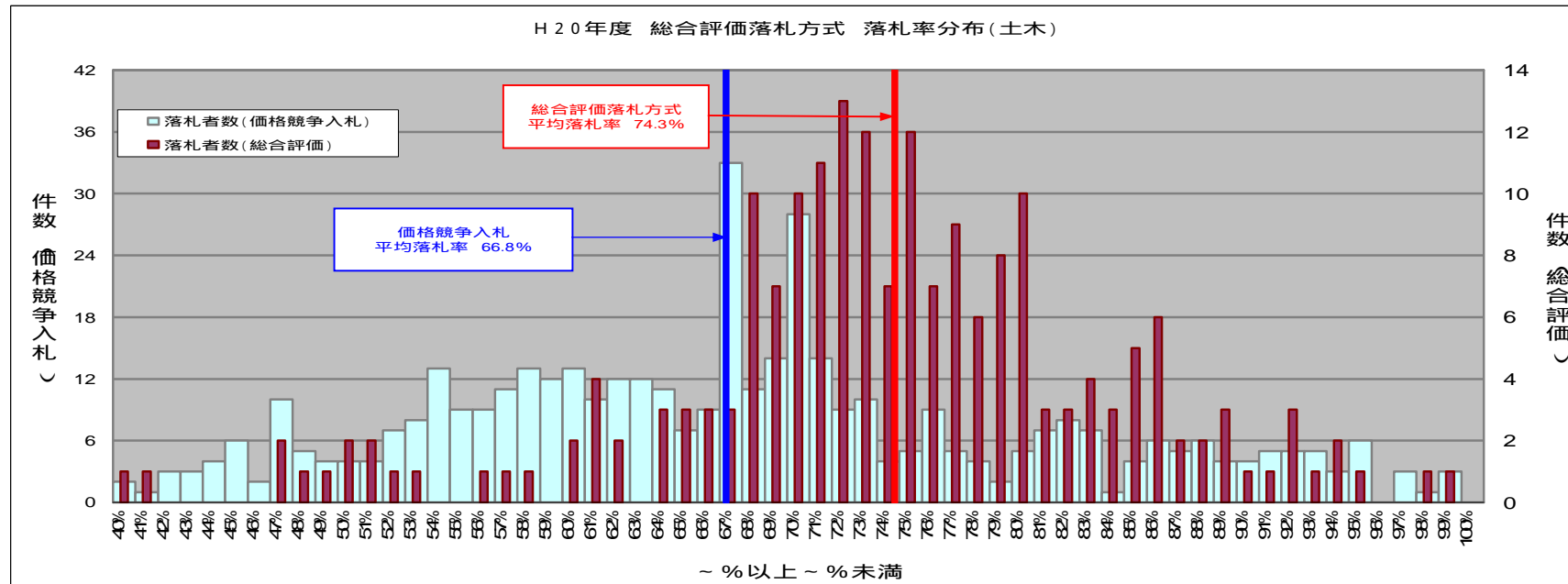


価格競争と総合評価落札方式との比較(総合評価374件と価格競争1,000万円以上との比較)

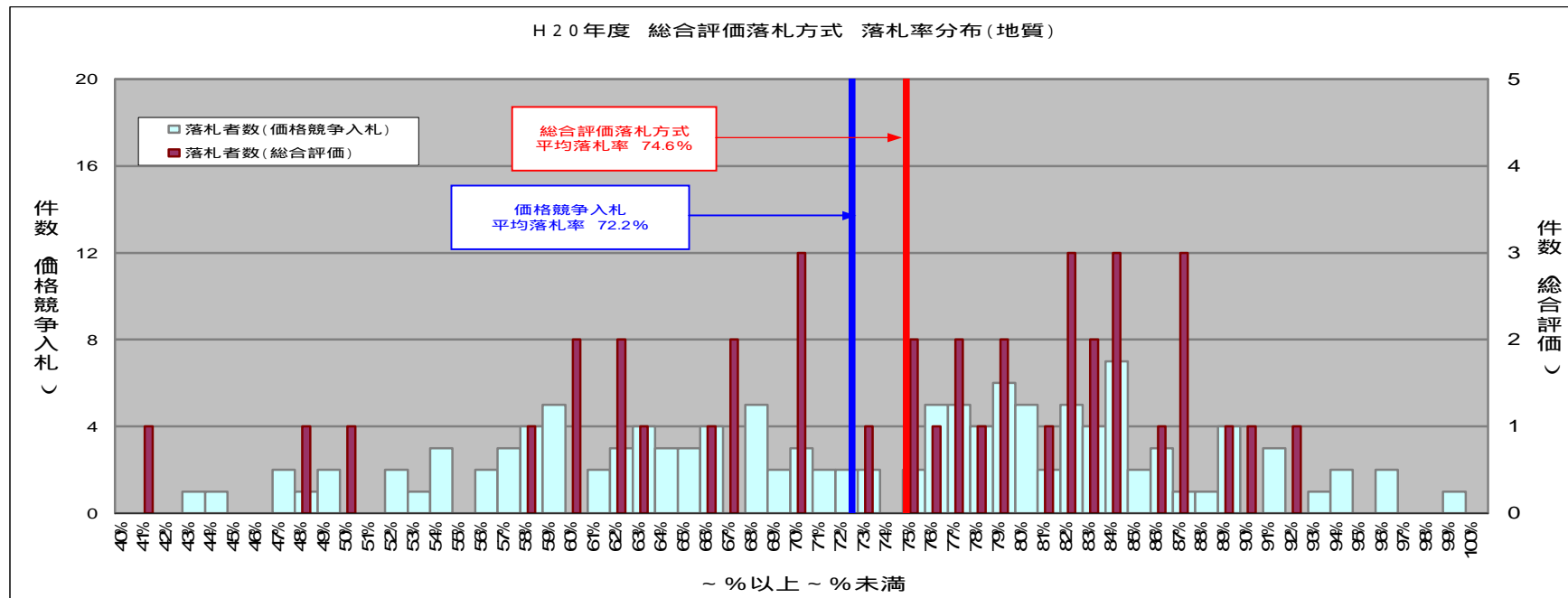
- ・平均落札率は、総合評価落札方式(78.3%)のほうが価格競争方式(71.0%)と比較して**7.3ポイント高い**。
- ・落札率の分布状況を価格のみの競争と比較すると、価格競争に明確なピークが現われないのに対し、総合評価落札方式では**70～80%と90%後半の落札が多い**。



価格競争入札は、北海道 + 8地整の価格競争:簡易公募・公募型、予定価格1000万円以上の業務(空港・港湾除く)



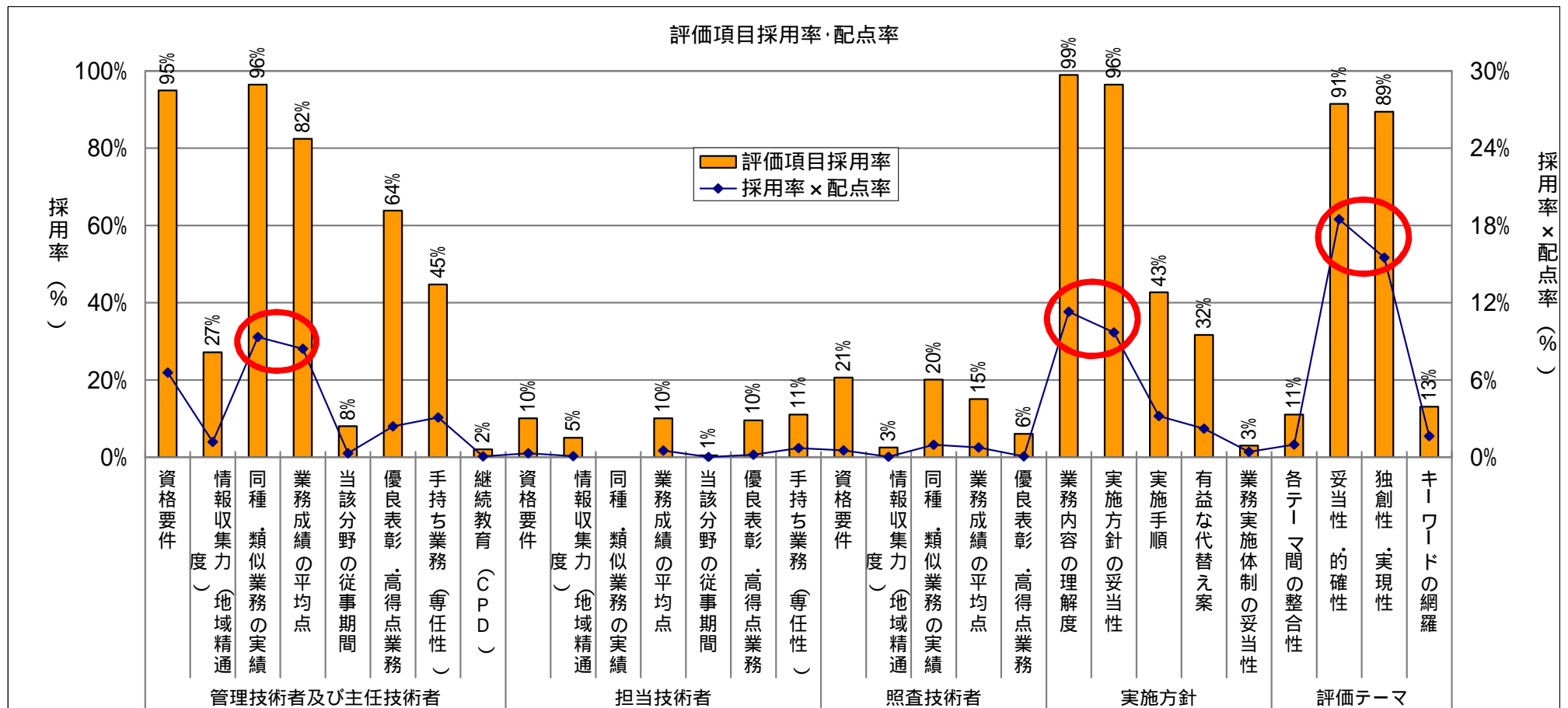
価格競争入札は、北海道 + 8地整の価格競争・簡易公募・公募型、予定価格1000万円以上の業務(空港・港湾除く)



価格競争入札は、北海道 + 8地整の価格競争：簡易公募・公募型、予定価格1000万円以上の業務(空港・港湾除く)

・土木分野における技術評価項目の採用状況は、主として「**予定管理技術者**」の資格要件及び同種・類似業務の実績、「**実施方針**」、「**評価テーマに対する提案**」の採用率が高い。

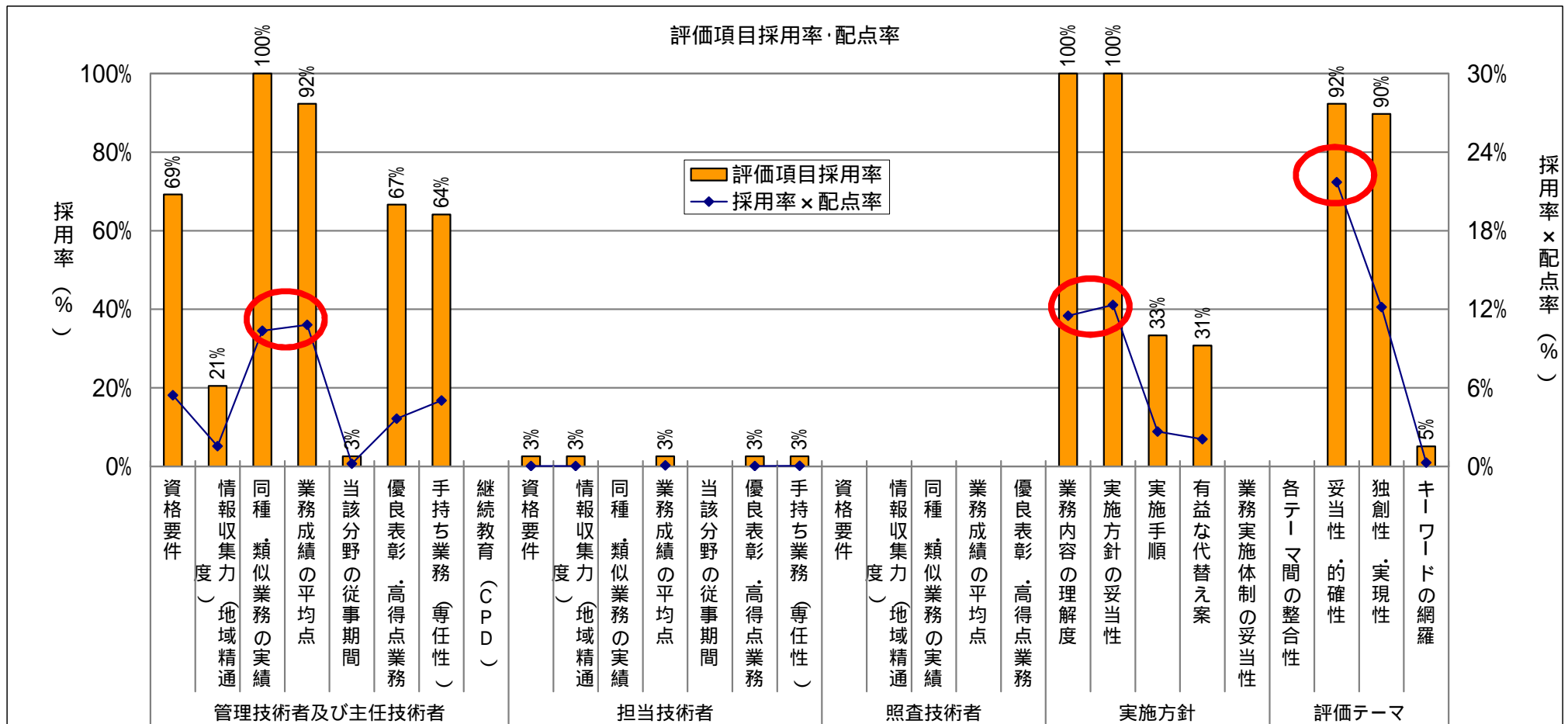
・配点率まで勘案すると「**評価テーマに対する提案**」の**妥当性・的確性と独創性・実現性**が重視されている。



評価項目「**工程計画の妥当性**」は「**実施方針の妥当性**」を含む

・測量における技術評価項目の採用状況は、主として「**予定主任技術者**」の**同種・類似業務の実績、業務成績の平均点**、「**実施方針**」の**業務内容の理解度、実施方針の妥当性**、「**評価テーマに対する提案**」の採用率が高い。

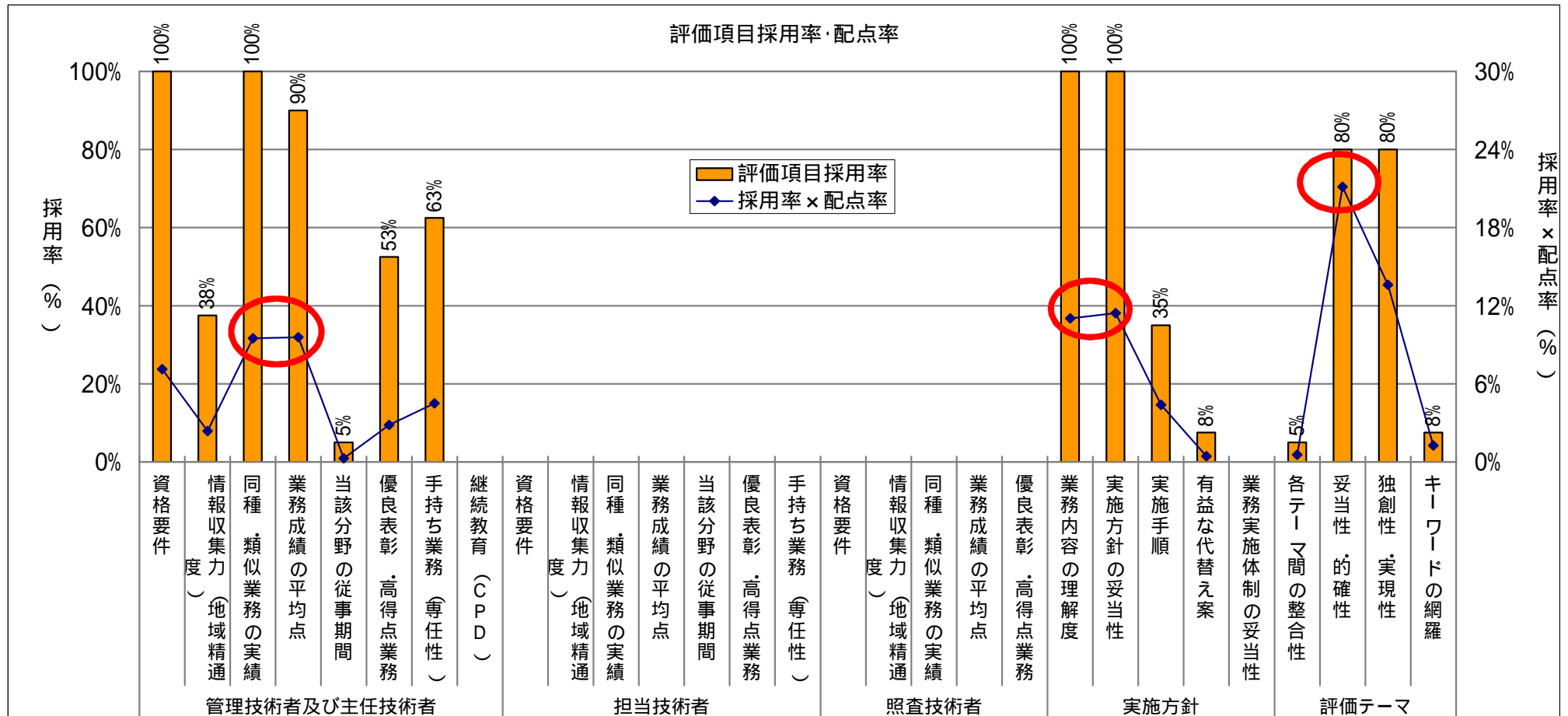
・配点率まで勘案すると土木と同様「**評価テーマに対する提案**」の**妥当性・的確性**が重視されている。



評価項目「工程計画の妥当性」は「実施方針の妥当性」に含む

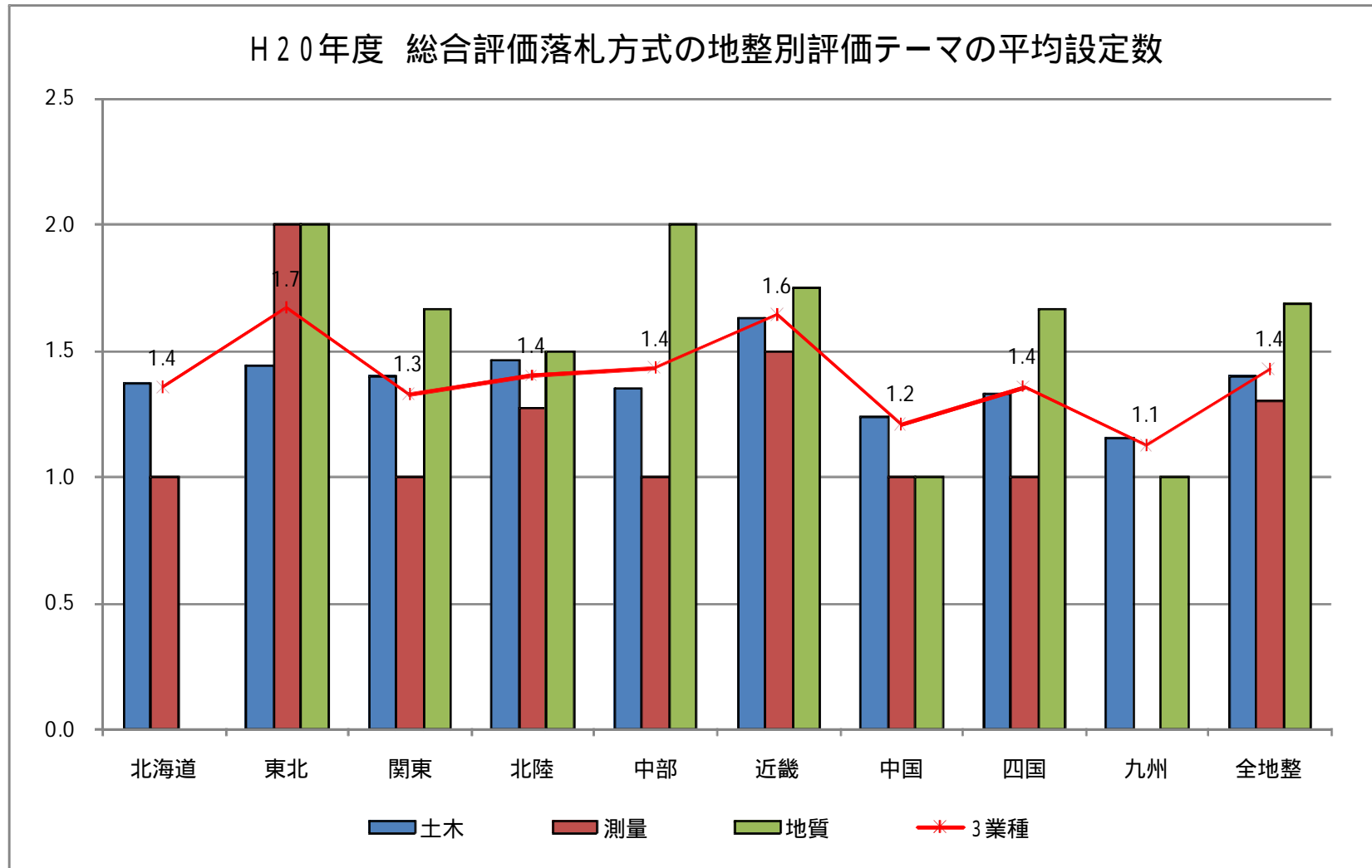
・地質調査における技術評価項目の採用状況は、「主任技術者」の資格要件、同種・類似業務の実績、業務成績の平均点、「実施方針」の業務内容の理解度、実施方針の妥当性の採用率が高い。

・配点率まで勘案すると土木と同様「評価テーマに対する提案」の妥当性・的確性が重視されている。

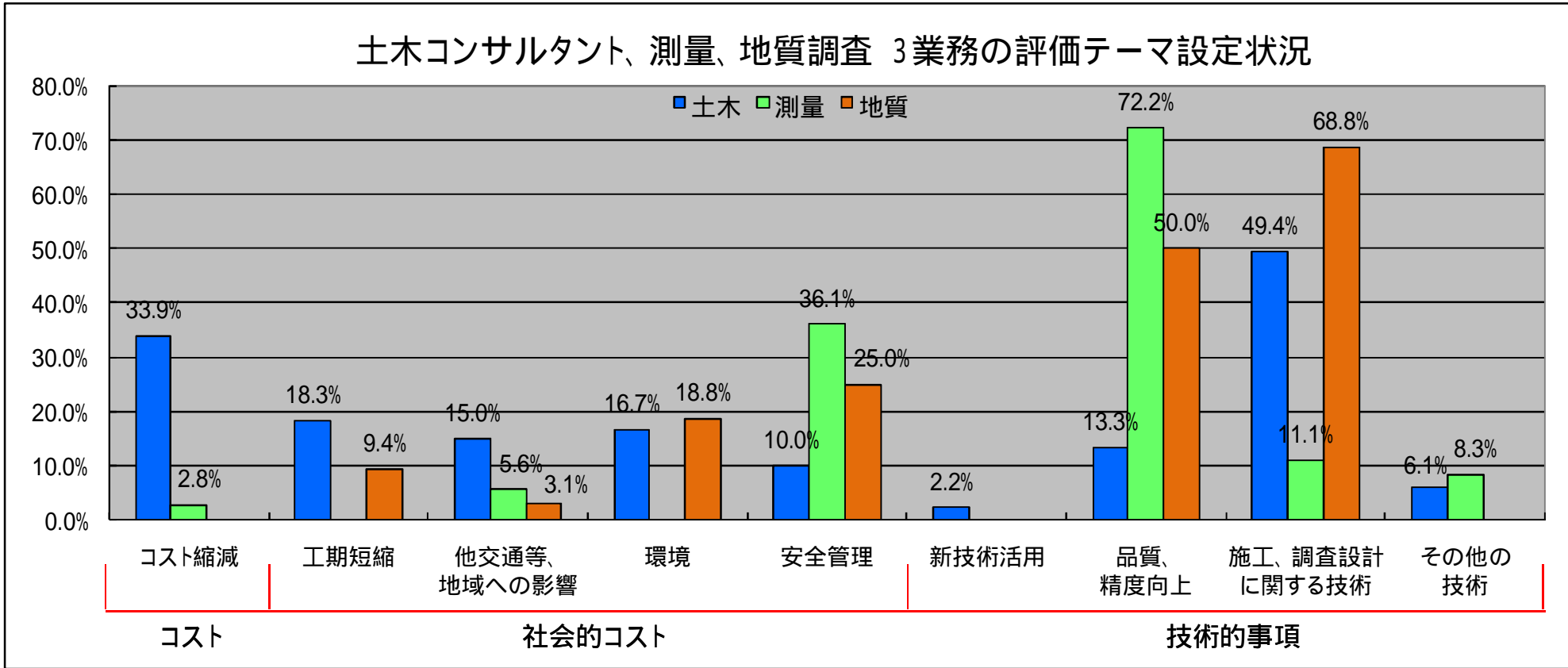


評価項目「工程計画の妥当性」は「実施方針の妥当性」に含む

・評価テーマ平均数は1.4。最も多いのは東北1.7、少ないのは九州1.1。

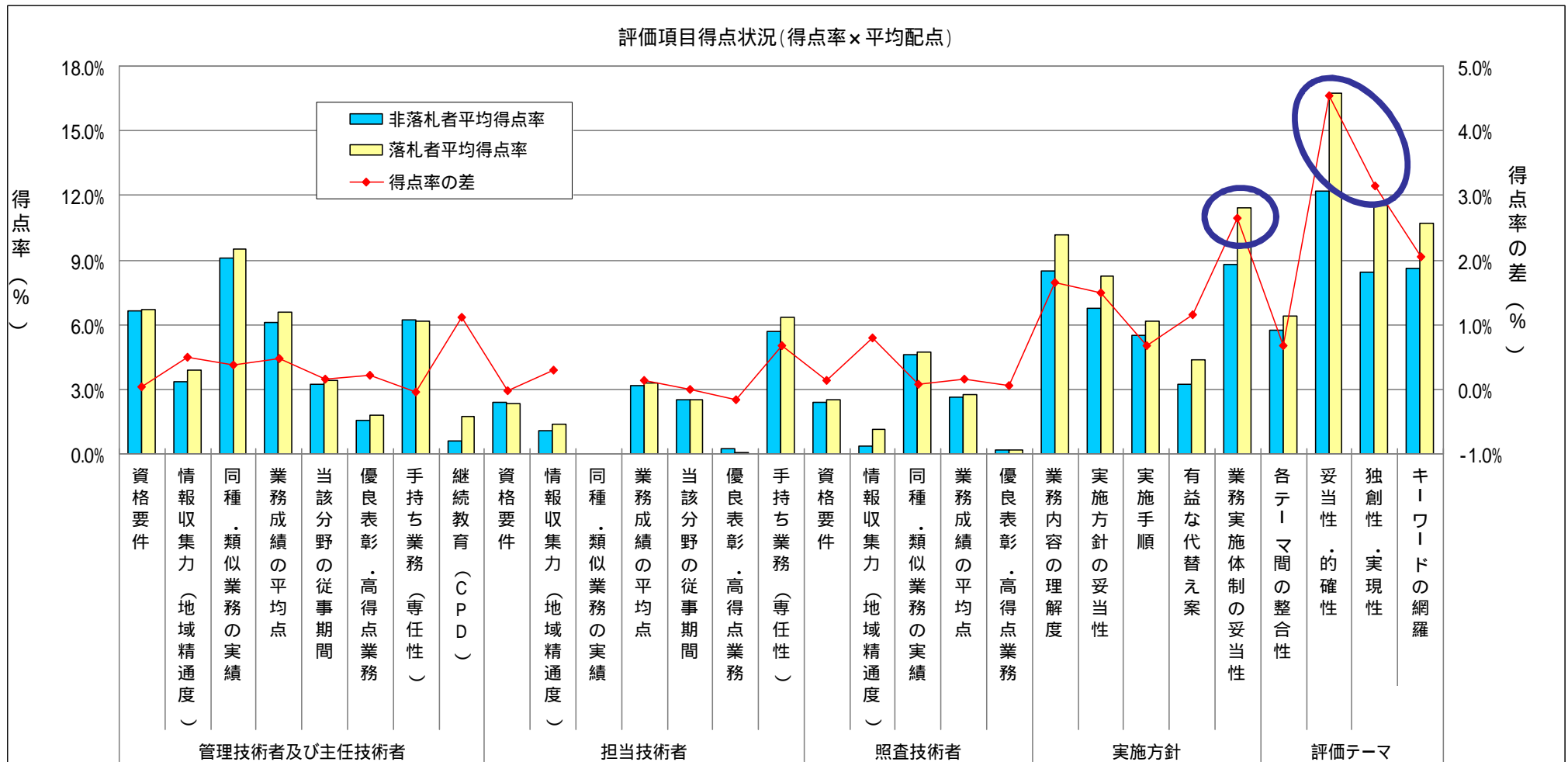


- ・土木分野における評価テーマは、「**施工、調査設計に関する技術**」(49.4%)、「**コスト縮減**」(33.9%)が多い
- ・測量における評価テーマは、「**品質・精度向上**」(72.2%)、「**安全管理**」(36.1%)が多い
- ・地質調査における評価テーマは、「**施工、調査設計に関する技術**」(68.8%)、「**品質、精度向上**」(50.0%)が多い



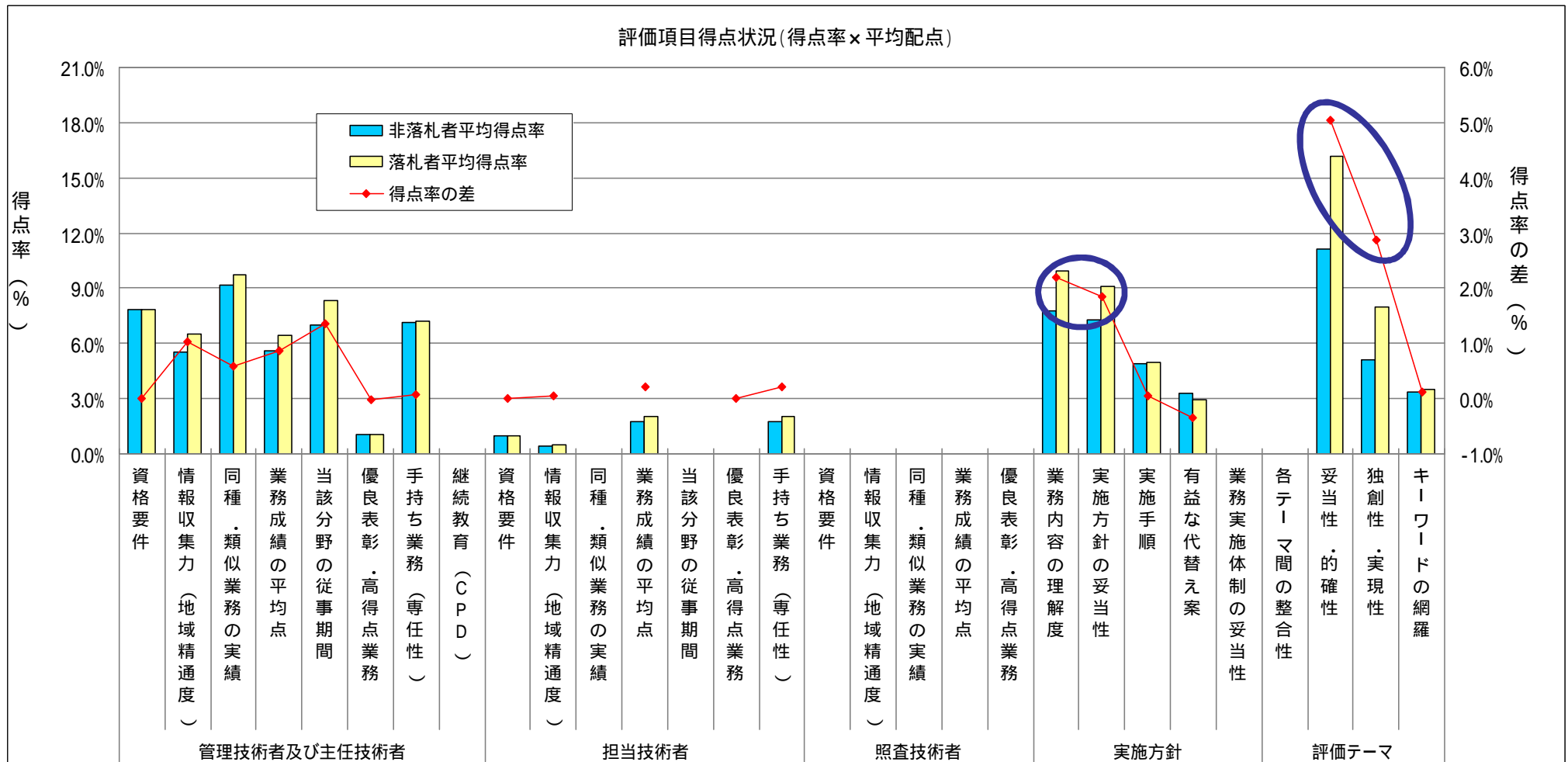
標準型(評価テーマあり)の件数に対する各カテゴリーのテーマが採用された件数の割合

・土木分野における落札者と非落札者の得点率を比較すると、「**評価テーマに対する提案**」と「**実施体制の妥当性**」において差が生じている。
 一方、「技術者」の評価では大きな差は生じていない。



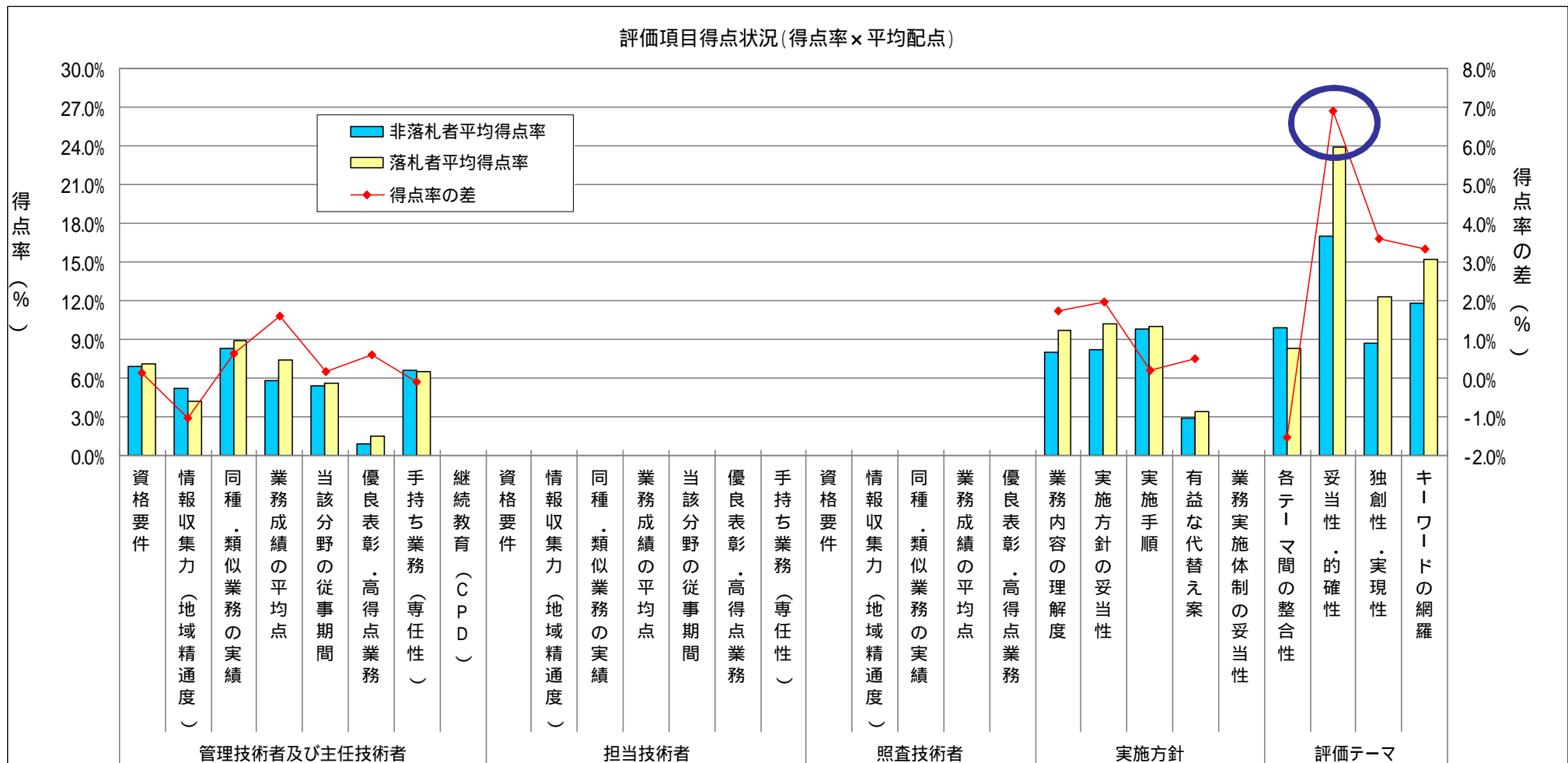
得点率は、満点に占める割合を示す。

・測量における落札者と非落札者の得点率を比較すると、「**評価テーマに対する提案**」において最も差が生じている。



得点率は、満点に占める割合を示す。

・地質調査における落札者と非落札者の得点率を比較すると、「**評価テーマに対する提案**」において最も差が生じている。

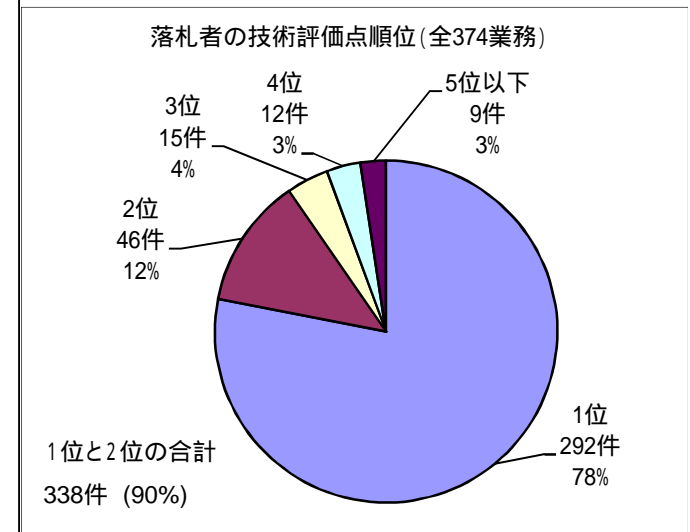
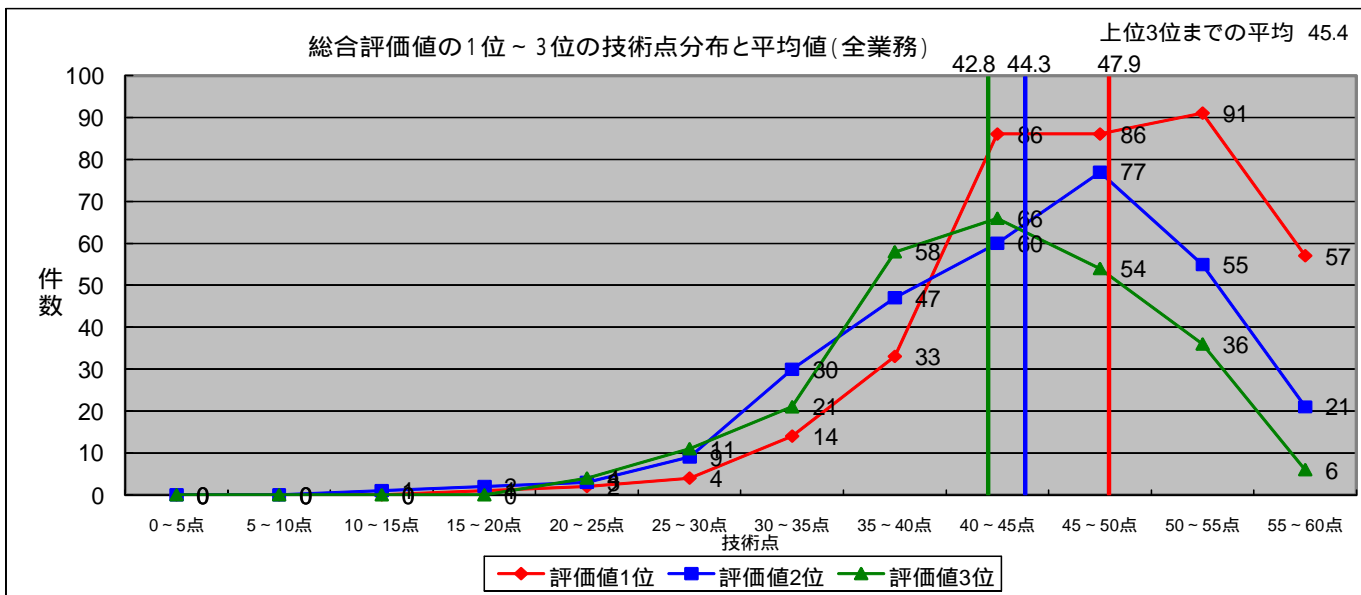
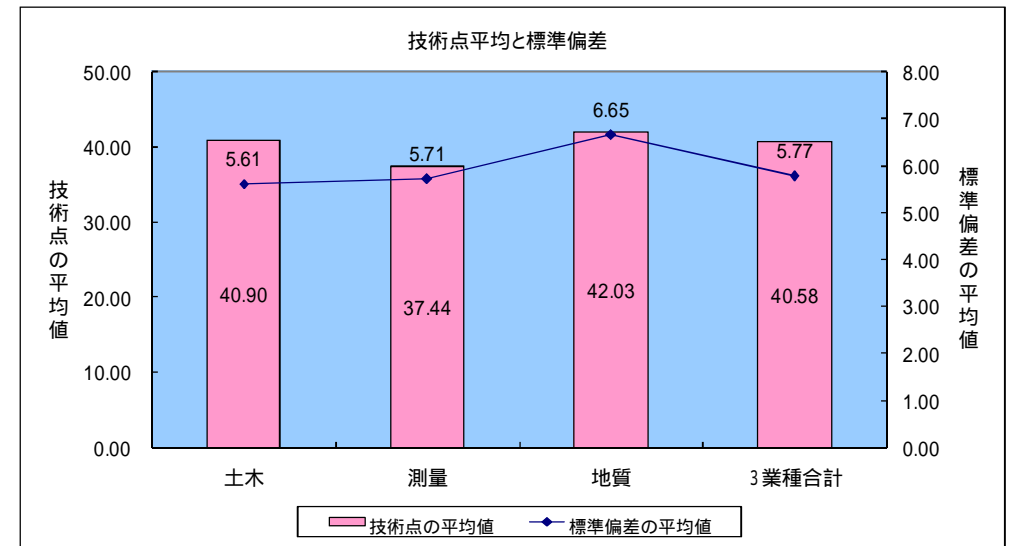


得点率は、満点に占める割合を示す。

・落札者と評価値(評価点)が2位、3位の点数を比較すると、その差はそれぞれ3.5点、5.1点となっており、60点満点**全体の1割程度の中で3者の競争**が行われている。(左下図)

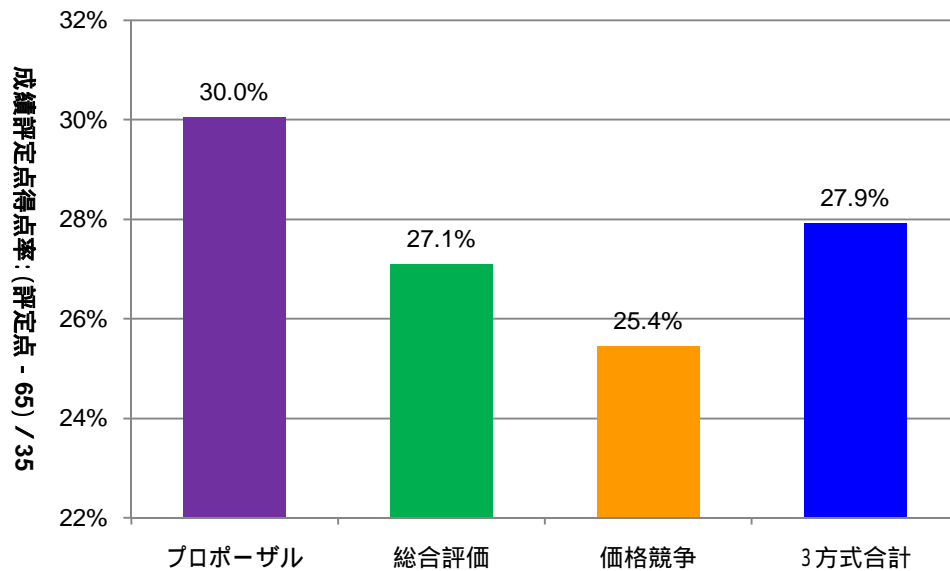
・技術点順位が1位又は2位の者が約9割の業務で落札しており、**高いレベルで競争**が行われている。(右下図)

・全応募者の技術点平均は40点前後(右上図)

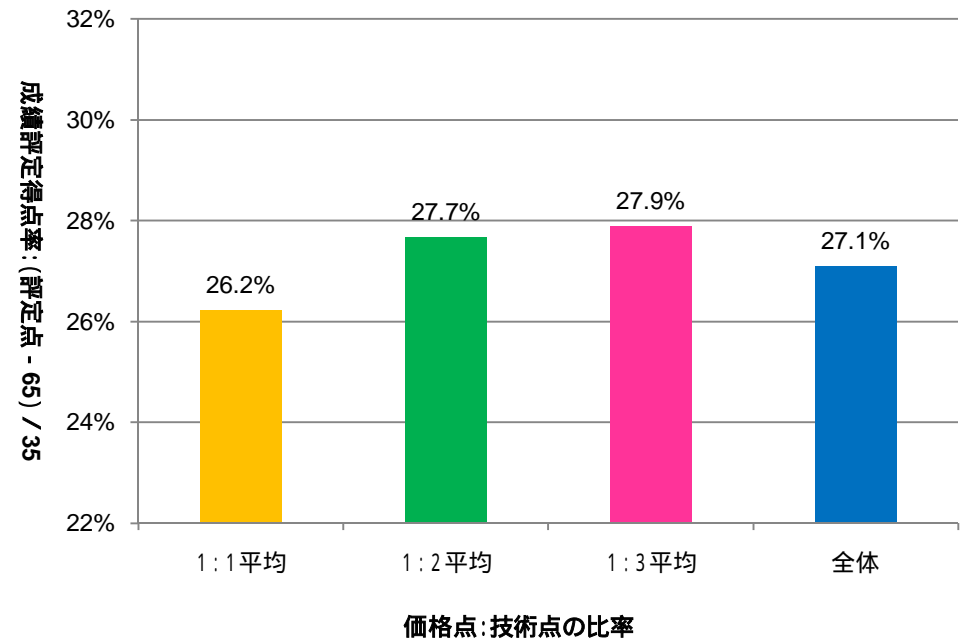


- ・平成20年度の総合評価落札方式の成績評定得点率は 27.1%となった。これは**価格競争よりも1.7ポイント(0.6点相当)高い得点率**となっている。
 - ・また、成績評定得点は技術点の比率が高いほど良くなる傾向があり、**成績評定得点率で1:3の業務(27.9%)が1:1の業務(26.2%)よりも1.7ポイント(0.6点相当)高い。**
- (総合評価の分析対象はH20年度に8地整+北海道開発局が発注した土木コン、測量、地質調査業務で、成績評定データとマッチングできた業務、ただし空港、港湾を除く。 N = 337件)

H20年度 調達方式別の成績評定得点率



平成20年度 総合評価落札方式 比率別 成績評定得点率

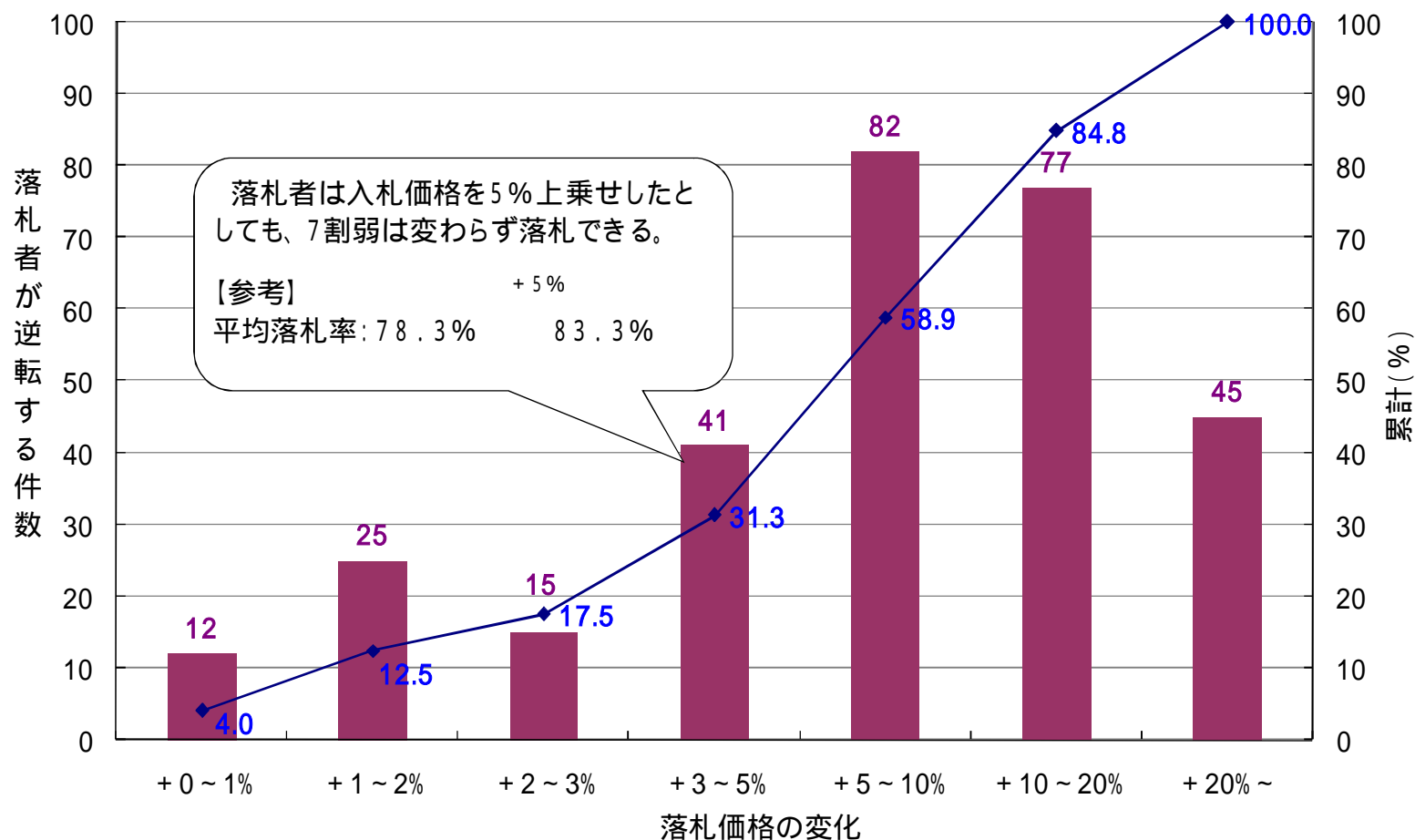


成績評定得点率: 100点満点の中で、基礎点の65点を差し引いた残り35点の中での得点割合 = (評定点 - 65) / 35 (%)

【参考】 落札者と2位が逆転する価格

- ・平成20年度に実施された土木コンサルタント等の総合評価落札方式(297件)において総合評価1位で落札した者が、応札価格に何%上乘せしたら総合評価2位の者に逆転されていたかシミュレーションを行った。
- ・この結果、5%上乘せした場合に逆転される率は全体の3割程度であり、7割は落札者は変わらない。

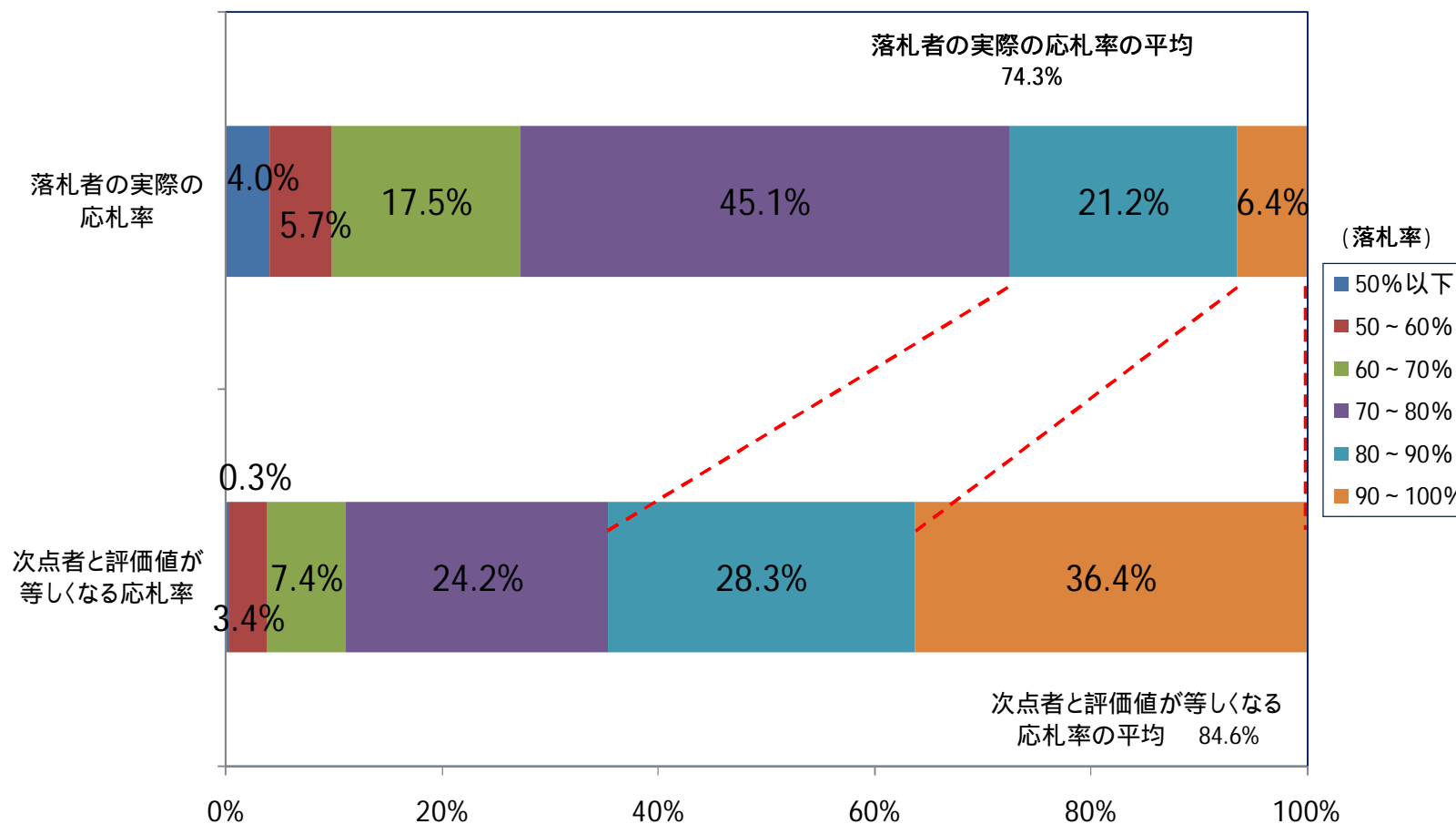
総合評価落札方式における応札価格と落札者の変更の関係



建設コンサルタント業務(測量、土木コンサル、地質調査)が対象。港湾空港分は除く。
 2者以上の応札があった業務を対象

- ・平成20年度に実施された土木コンサルタント等の総合評価落札方式(297件)において総合評価1位で落札した者が、応札価格に何%上乘せしたら総合評価2位の者に逆転されていたかシミュレーションを行った。
- ・この結果、応札率が80%以上で**落札した業務**の割合は**27.6%**であったが、応札率が80%以上で**落札できる業務**の割合は**64.7%**であった。

落札者の実際の応札率と次点者と評価値が等しくなる応札率の比較



2者以上の応札があった業務297件が対象。

平成21年度 総合評価落札方式の実施状況(4～9月分)



・平成21年度(4月～9月)の建設コンサルタント業務等の契約数は、前年度(通年)と比べ総合評価の割合が大幅に増加(対前年比で約7倍)している。

地方整備局等(港湾空港除く)における契約状況

	(件数)		
	H19年度	H20年度	H21年度 (4～9月)
価格競争	(51.5%) 8,910	(48.7%) 7,578	(41.7%) 4,989
総合評価落札方式	(0.1%) 23	(2.5%) 381	(21.7%) 2,589
プロポーザル方式	(29.5%) 5,112	(44.8%) 6,970	(35.1%) 4,194
特命随意契約	(18.9%) 3,266	(4.0%) 619	(1.5%) 185
計	(100%) 17,311	(100%) 15,548	(100%) 11,957

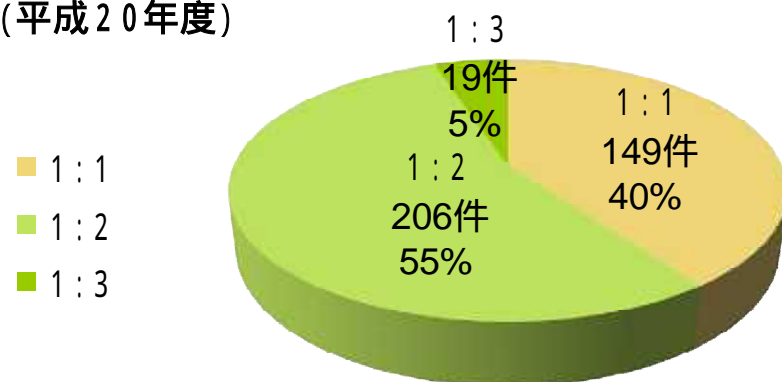
8地整 + 北海道 + 沖縄における契約状況。

建設コンサルタント業務等(土木、測量、地質調査、建築、補償)による集計。

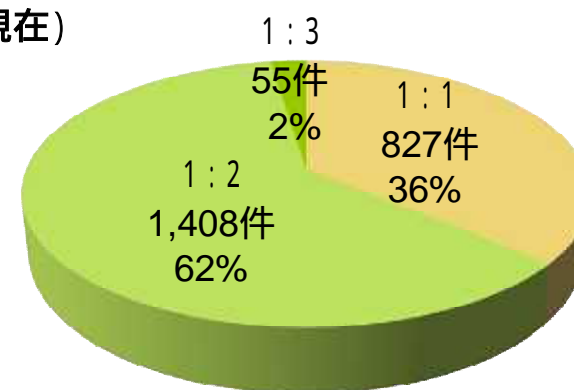
・平成21年度から、評価テーマ数に応じて配点比率を決定。その結果、**1:2が最も多く(1,408件、62%)**、**1:3が最も少ない(55件、2%)**。

	比率	技術提案
標準型	1:3	実施方針 + 評価テーマ(2つ以上)
	1:2	実施方針 + 評価テーマ(1つ)
簡易型	1:1 業務の難易度に応じて 1:2も使用可	実施方針のみ

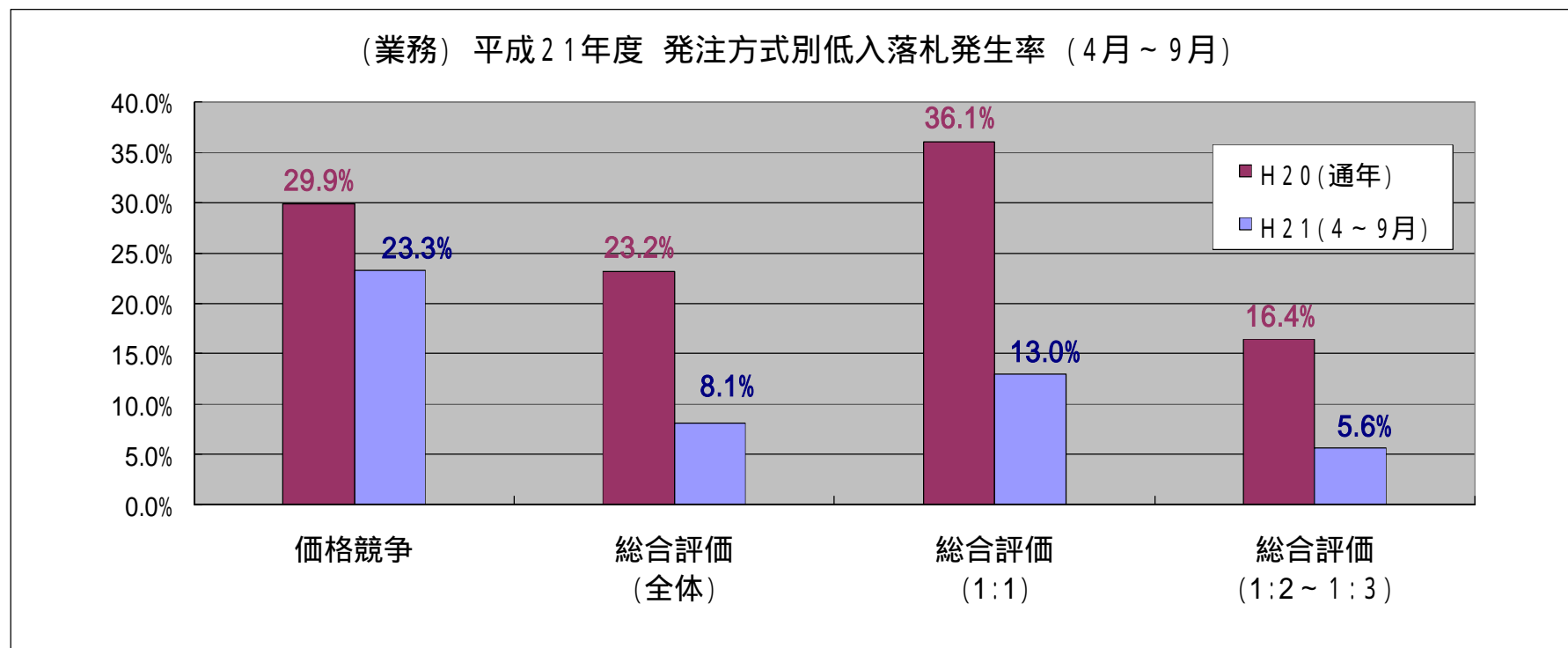
(平成20年度)



(平成21年9月末現在)



- ・20年度(通年)、21年度(4月～9月)のいずれも価格競争に比べて総合評価(全体)の低入札発生率が低い。
- ・総合評価の低入札発生率は約1/3に激減(20年度:23.2%→21年度:8.1%)している。

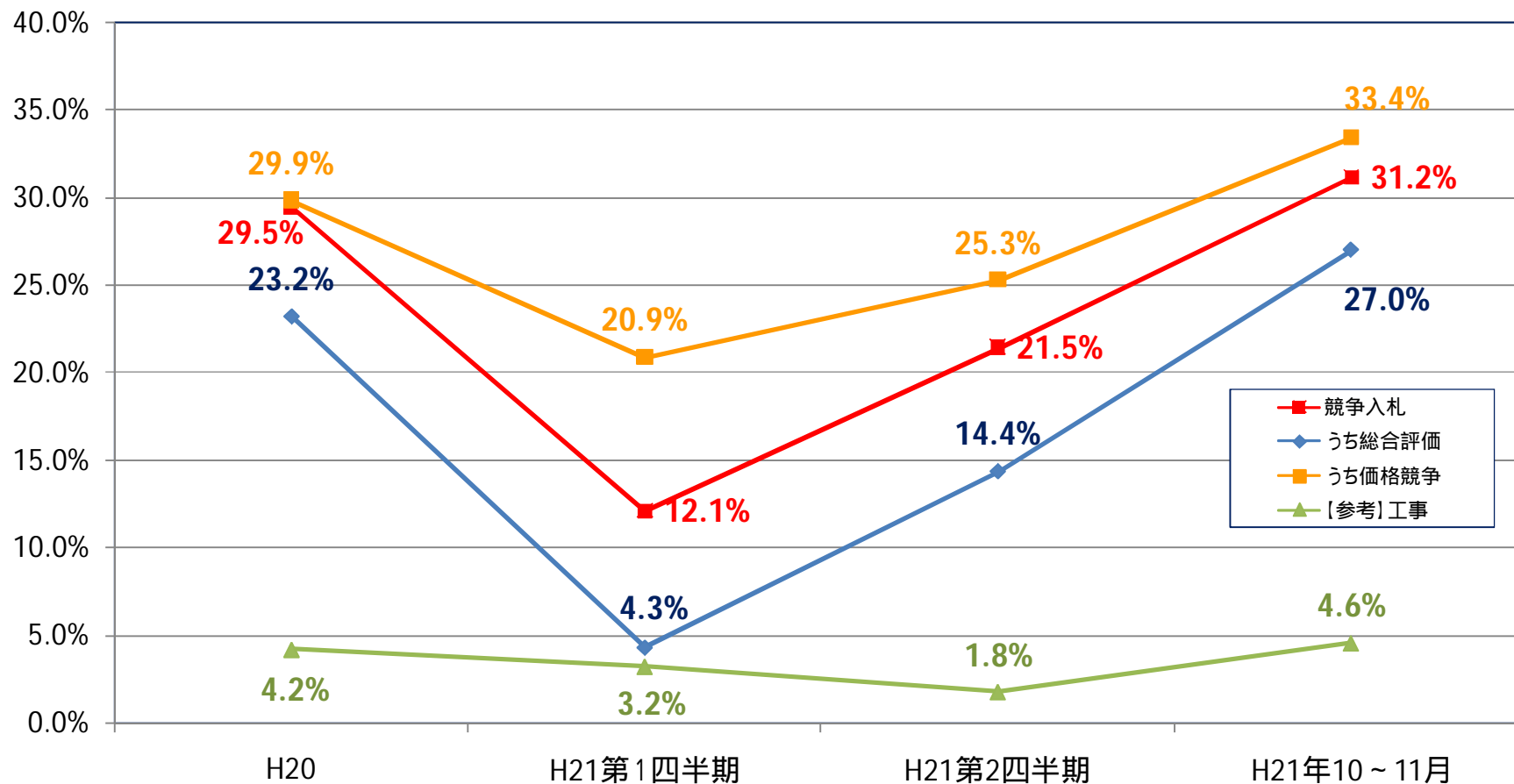


H21	対象業務 件数(A)	2,958件	2,038件	684件	1,354件
	低入札 件数(B)	688件	165件	89件	76件
H20	対象業務 件数(A)	4,356件	280件	97件	183件
	低入札 件数(B)	1,301件	65件	35件	30件

数値は速報値であり、今後変更があり得る。

- ・低入札による契約率は、総合評価より価格競争の方が大きい。
- ・工事と比べて業務の方が、低入札による契約率が高い傾向を示している。

(業務) 平成21年度 低入札による契約率の推移



八地方整備局、北海道開発局及び沖縄総合事務局で契約した建設コンサルタント業務等(測量、土木コンサル、地質調査、建築及び補償。港湾空港関係業務を除く)のうち、予定価格1,000万円以上の業務が対象。ただし、随意契約、単価契約を除く。
数値は速報値。

総合評価落札方式における評価方法の改善検討 (1位満点方式シミュレーション)



より適正な技術競争が行えるような評価項目、配点、採点のあり方について検討(相対評価*or絶対評価の採用方針についても検討)

* 技術点の配点合計を大きくとり、その後、60点に換算する方式

相対評価又は絶対評価については、メリット、デメリットがあり、よりよい評価方法について引き続き検討

評価方式	概要	長所	短所
絶対評価	<p>項目毎に数値や該当事項の有無による詳細な評価基準を設けて評価する</p> <p>(例) 項目毎の絶対評価得点を積み上げた結果(60点満点の場合)</p> <p>1位 55.5点 2位 52.2点 3位 48.4点 ... 10位 33.5点</p>	<p>技術力評価の差がそのまま得点差に反映され、評価者の主観に左右されない</p> <p>なにが優れていて何が劣っていたか点数で説明しやすい</p>	<p>技術力が均衡している場合は、差が付きにくい。</p> <p>評価基準が固定化されると画一的な評価につながるおそれあり</p>
相対評価	<p>項目毎に全参加者の相対評価を行い、各項目毎に、最も優れている者に配点の100%を与え最下位は0点とし、その他は相対的な順位に応じて比例配分する。</p> <p>それにより得られた各項目点の総和を評価点とする</p> <p>(例) 項目毎の相対評価得点を積み上げた結果(60点満点の場合)</p> <p>1位 55.0点 2位 50.2点 3位 45.4点 ... 10位 27.5点</p>	<p>僅差の場合でも各項目毎に評価に一定の差が付きやすい。</p>	<p>技術提案内容の差と得点の差が提案者全体の技術力分布に左右される。</p>
1位満点方式 (比例配分型)	<p>絶対評価を行った後に、合計で最も優れている者に配点の100%を与え最下位は0点とし、その他は相対的な順位に応じて比例配分する</p> <p>(例) 絶対評価による順位に応じて以下の通り点数を付与(60点満点の場合)</p> <p>1位 60点 2位 54点 3位 48点 ... 11位 0点</p>	<p>僅差の場合でも評価に一定の差が付きやすい。</p> <p>技術力が高い者を優位に評価</p>	<p>技術提案内容の差と得点の差が提案者全体の技術力分布に左右される。</p>

➡ 試行

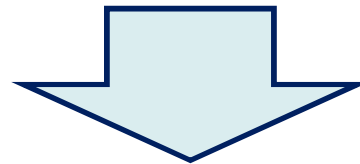
ア) 技術評価点に差をつけるための1位満点方式のシミュレーション (パターン1)

➤ シミュレーションの方法<パターン1>

絶対評価を行った後に、合計で最も優れている者に配点の100%を与え最下位は0点とし、その他は相対的な点数差に応じて比例配分する。

$$\text{技術評価点} = \frac{\text{修正前得点} - \text{最低得点}}{\text{最高得点} - \text{最低得点}} \times \text{満点 (60点)}$$

注) 平成20年度の総合評価落札方式で、2者以上の競争となった3業種(265件)を対象。

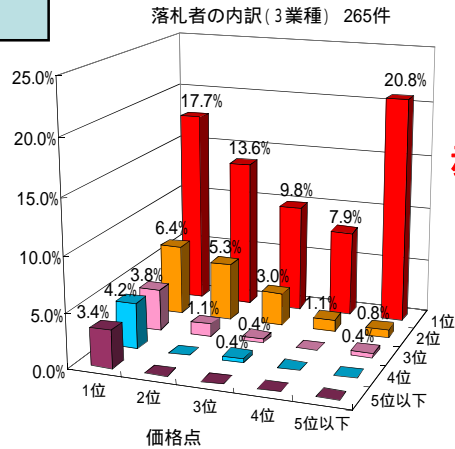


➤ 1位満点方式(パターン1)シミュレーション結果

- ・技術評価点の最高得点者が落札した割合は、69.8%→94.3%までのび、結果はプロポ - ザルに酷似した結果となった。
- ・一方で、技術評価点の最高得点者の内、最低価格者の落札(17.7%)は変化なし。
- ・1位と3位の差は、平均4.9点→平均21.7点となり、順位間の差も大幅につきやすくなった反面、提案者の数により全体の技術評価点分布が左右される結果となった。

ア) 技術評価点に差をつけるための1位満点方式のシミュレーション (パターン1)

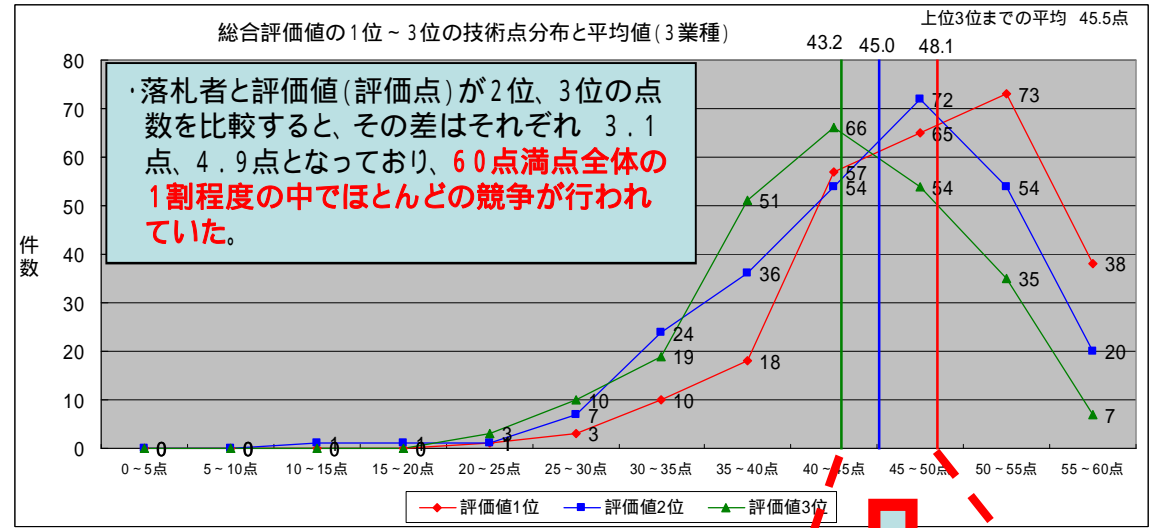
現行



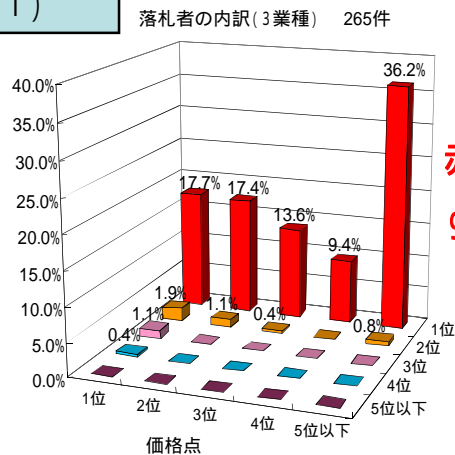
赤色の合計
69.8%

価格点1位	94件 (35.5%)
価格点1位以外	171件 (64.5%)

技術点1位	185件 (69.8%)
技術点1位以外	80件 (30.2%)



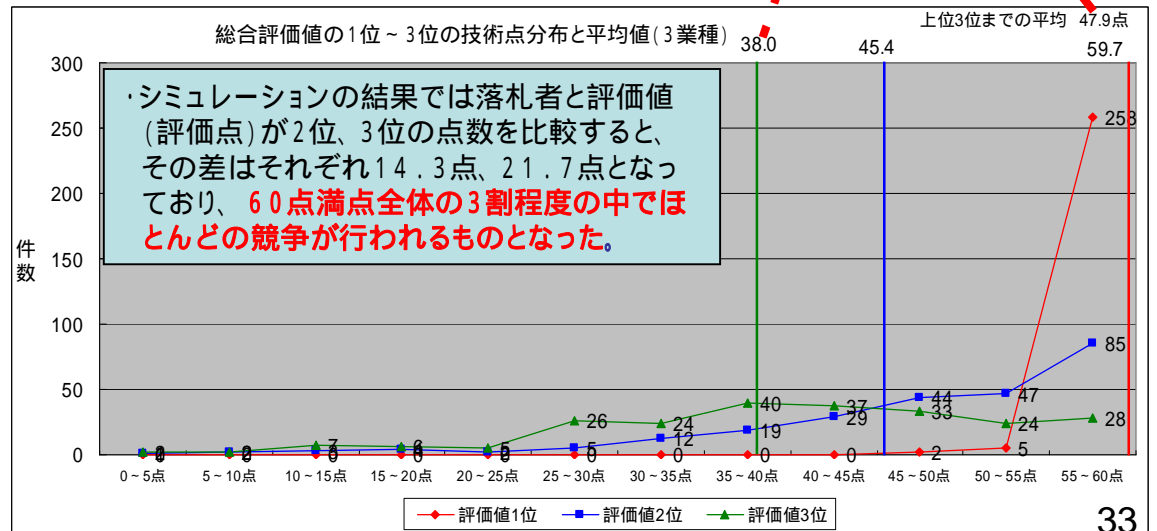
1位満点方式 (パターン1)



赤色の合計
94.3%

価格点1位	56件 (21.1%)
価格点1位以外	209件 (78.9%)

技術点1位	250件 (94.3%)
技術点1位以外	15件 (5.7%)



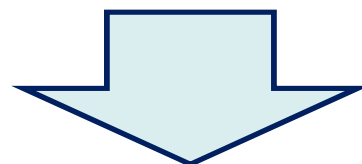
イ) 技術評価点に差をつけるための1位満点方式のシミュレーション (パターン2)

➤ シミュレーションの方法<パターン2>

絶対評価を行った後に、合計で最も優れている者に配点の100%を与え、その他は相対的な技術点の比率に応じて比例配分する。

$$\text{技術評価点} = \text{修正前得点} \times \frac{\text{満点(60点)}}{\text{最高得点}}$$

注) 平成20年度の総合評価落札方式で、2者以上の競争となった3業種(265件)を対象。

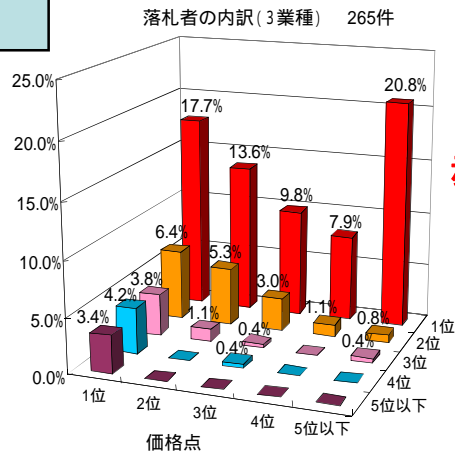


➤ 1位満点方式(パターン2)シミュレーション結果

- ・技術評価点の最高得点者が落札した割合は、69.8%→74.7%とやや増えており、現行よりやや技術力優位となる結果となった。
- ・一方で、技術評価点の最高得点者の最低価格者(17.7%)は変化なし。
- ・1位と3位の差は、平均4.9点→平均6.6点となり、順位間の差もやや広がったが、技術評価点の最高得点者の得点率により全体の技術点分布が左右される結果となった。

イ) 技術評価点に差をつけるための1位満点方式のシミュレーション (パターン2)

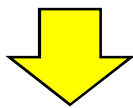
現行



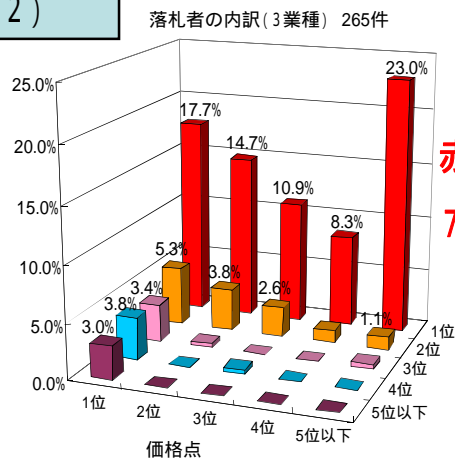
赤色の合計
69.8%

価格点1位	94件	(35.5%)
価格点1位以外	171件	(64.5%)

技術点1位	185件	(69.8%)
技術点1位以外	80件	(30.2%)



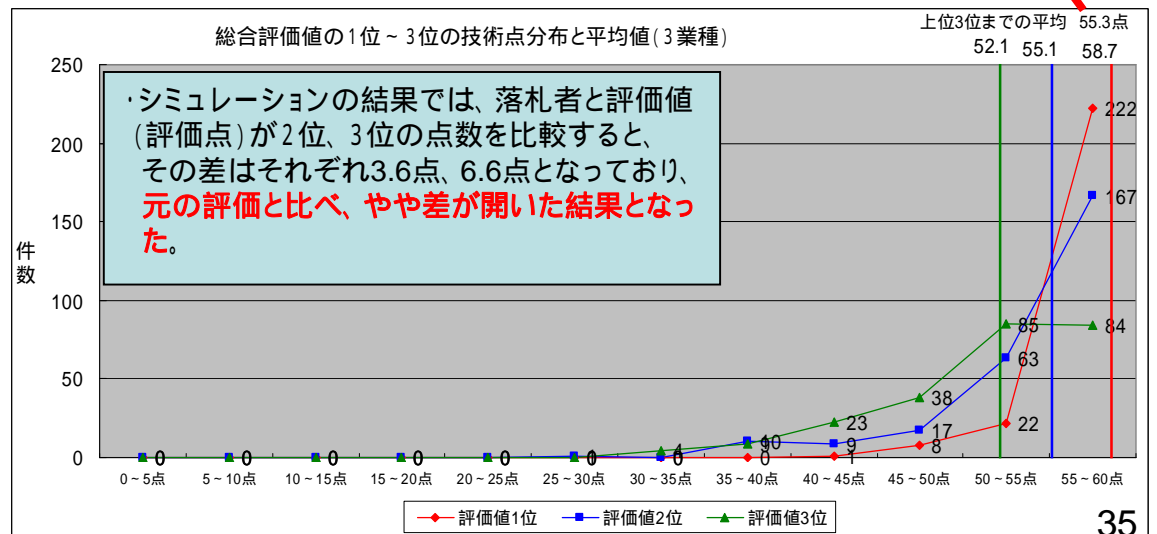
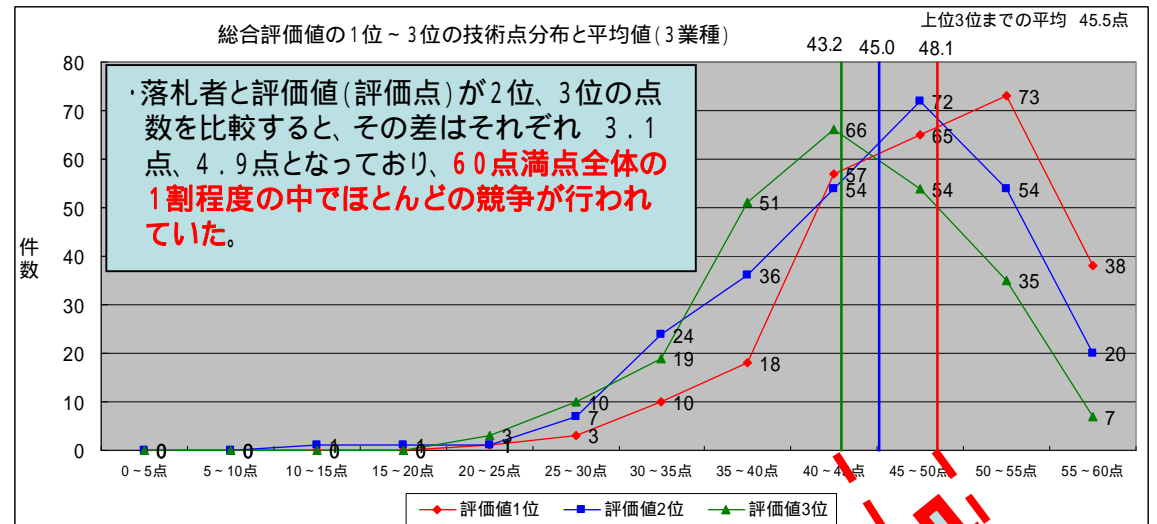
1位満点方式 (パターン2)



赤色の合計
74.7%

価格点1位	88件	(33.2%)
価格点1位以外	177件	(66.8%)

技術点1位	198件	(74.7%)
技術点1位以外	67件	(25.3%)



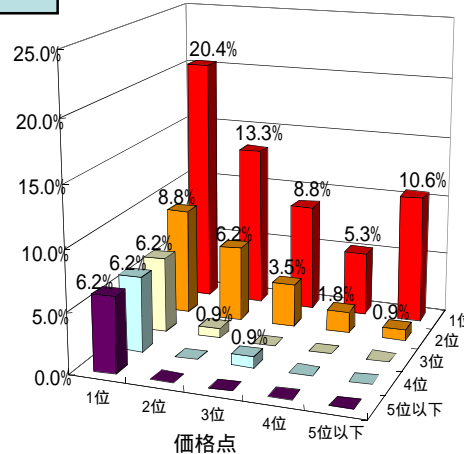
参考資料編

1位満点方式シミュレーション(価格点:技術点 = 1:1) 国土技術政策総合研究所

ア) 技術評価点に差をつけるための1位満点方式のシミュレーション (パターン1)

現行

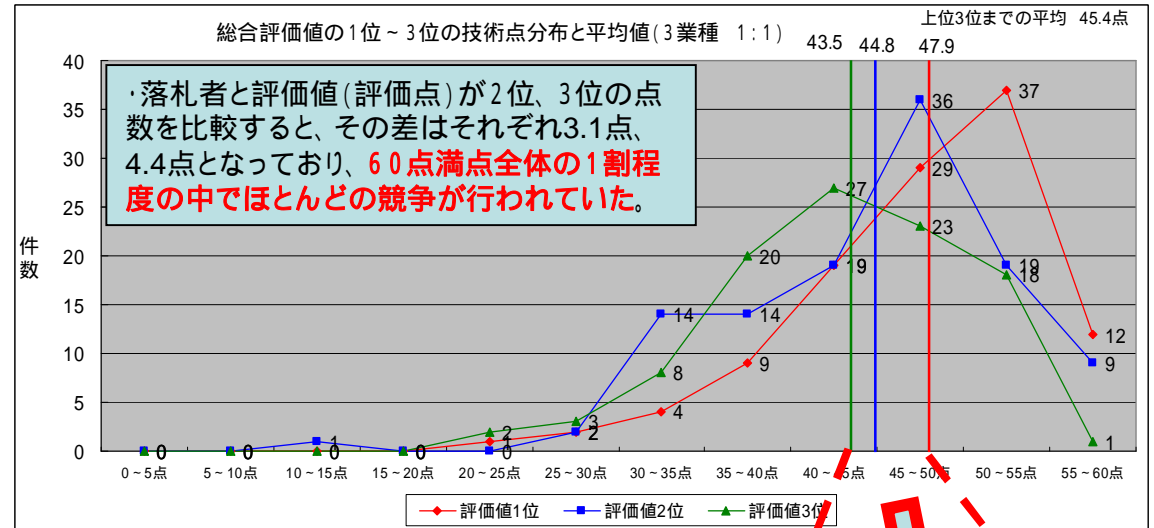
落札者の内訳(3業種 1:1) 113件



赤色の合計
58.4%

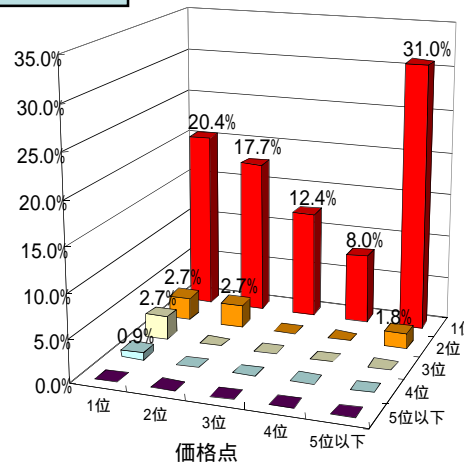
価格点1位	54件	(47.8%)
価格点1位以外	59件	(52.2%)

技術点1位	66件	(58.4%)
技術点1位以外	47件	(41.6%)



1位満点方式 (パターン1)

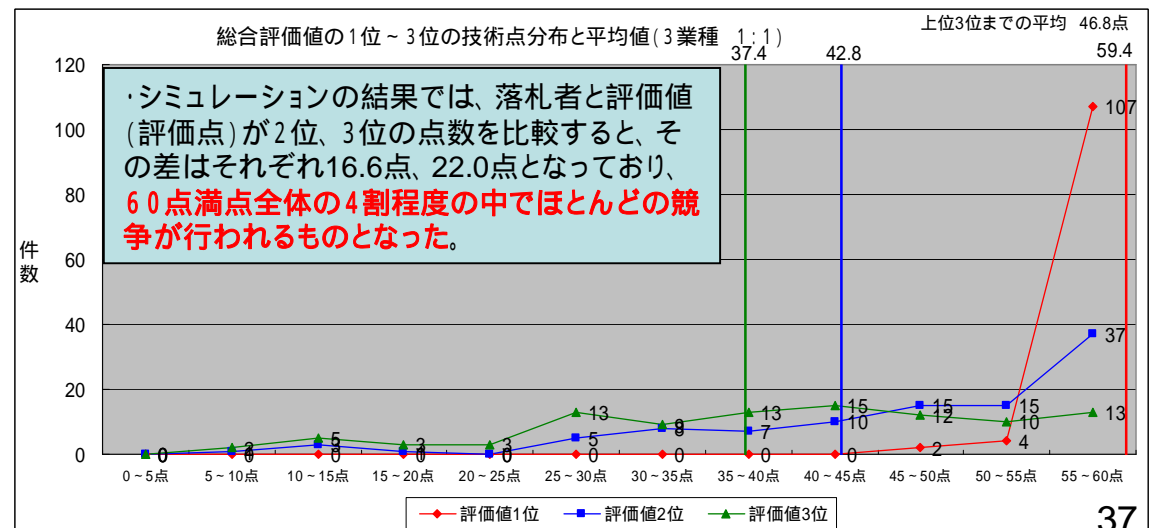
落札者の内訳(3業種 1:1) 113件



赤色の合計
89.4%

価格点1位	30件	(26.5%)
価格点1位以外	83件	(73.5%)

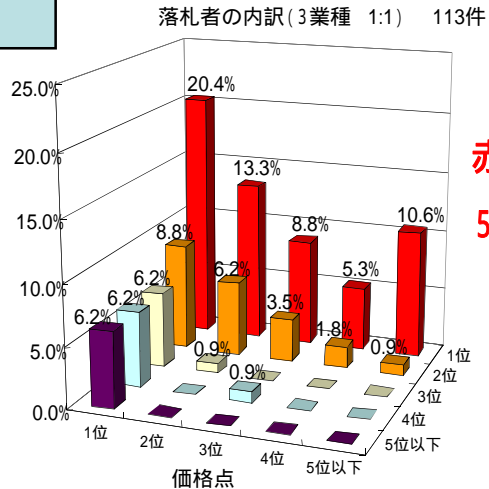
技術点1位	101件	(89.4%)
技術点1位以外	12件	(10.6%)



1位満点方式シミュレーション(価格点:技術点 = 1:1) 国土技術政策総合研究所

イ) 技術評価点に差をつけるための1位満点方式のシミュレーション (パターン2)

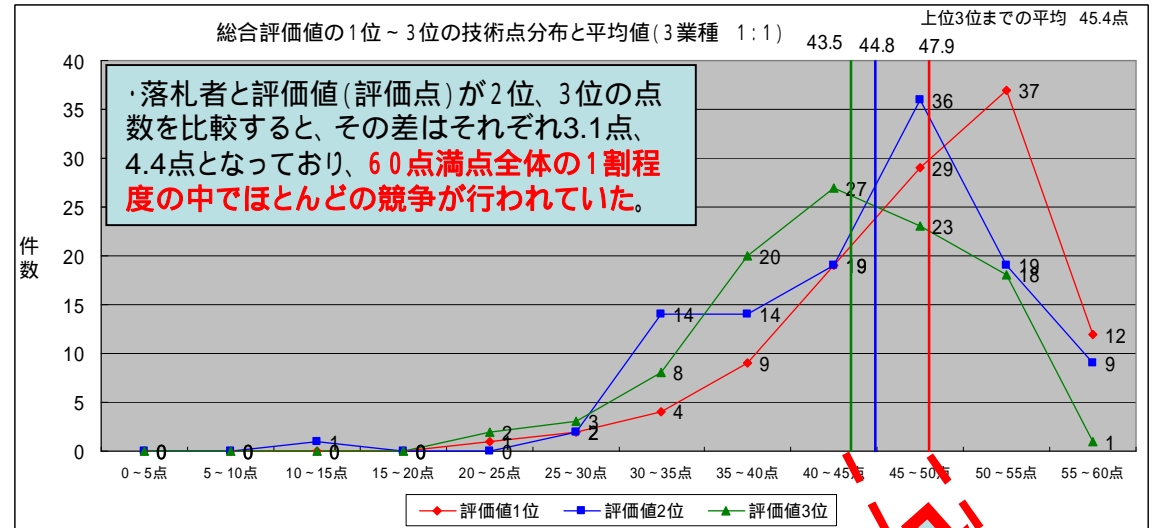
現行



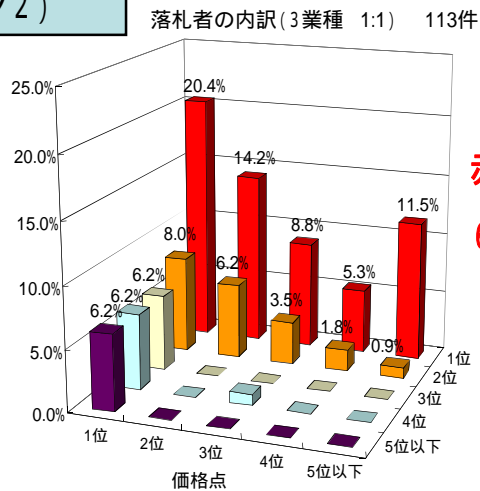
赤色の合計
58.4%

価格点1位	54件 (47.8%)
価格点1位以外	59件 (52.2%)

技術点1位	66件 (58.4%)
技術点1位以外	47件 (41.6%)



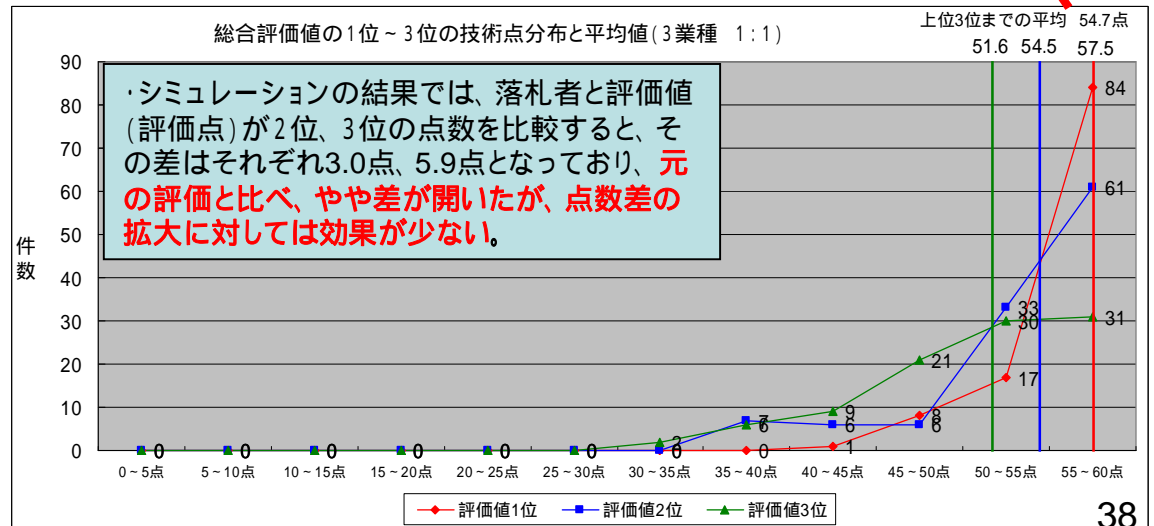
1位満点方式
(パターン2)



赤色の合計
60.2%

価格点1位	53件 (46.9%)
価格点1位以外	60件 (53.1%)

技術点1位	68件 (60.2%)
技術点1位以外	45件 (39.8%)

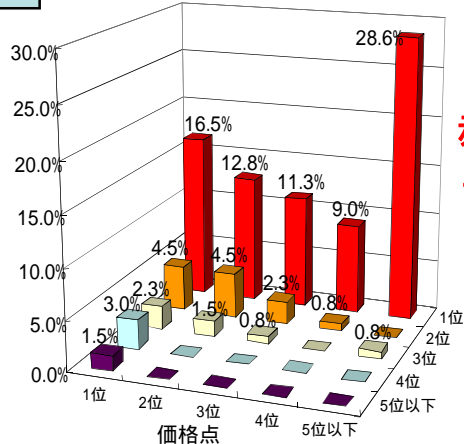


1位満点方式シミュレーション(価格点:技術点 = 1:2) 国土技術政策総合研究所

ア) 技術評価点に差をつけるための1位満点方式のシミュレーション (パターン1)

現行

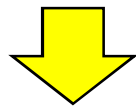
落札者の内訳(3業種 1:2) 133件



赤色の合計
78.2%

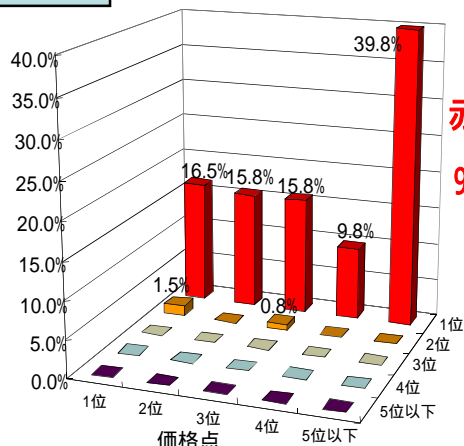
価格点1位	37件 (27.8%)
価格点1位以外	96件 (72.2%)

技術点	104件 (78.2%)
技術点1位以外	29件 (21.8%)



1位満点方式 (パターン1)

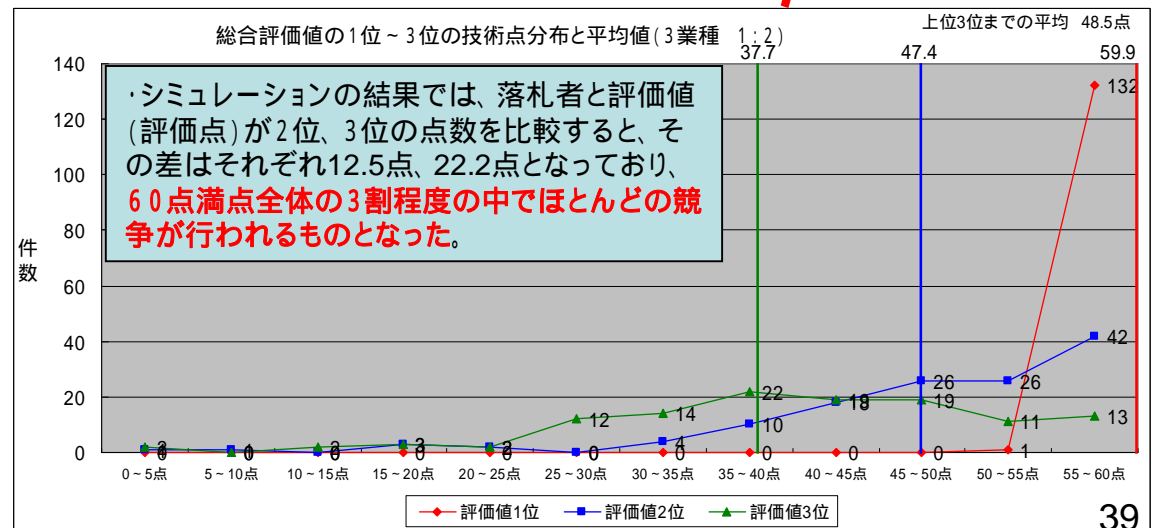
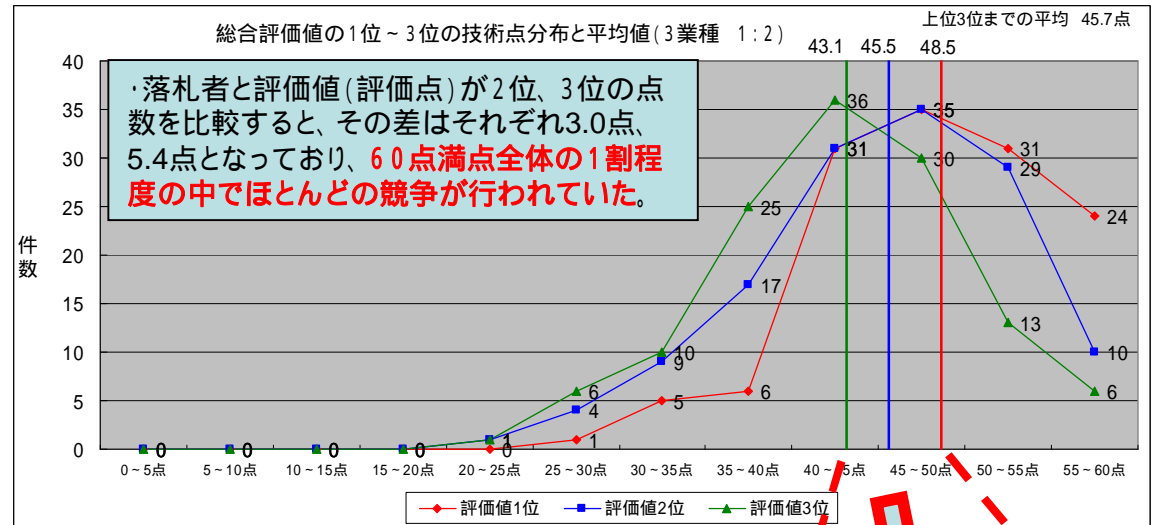
落札者の内訳(3業種 1:2) 133件



赤色の合計
97.7%

価格点1位	24件 (18.0%)
価格点1位以外	109件 (82.0%)

技術点	130件 (97.7%)
技術点1位以外	3件 (2.3%)

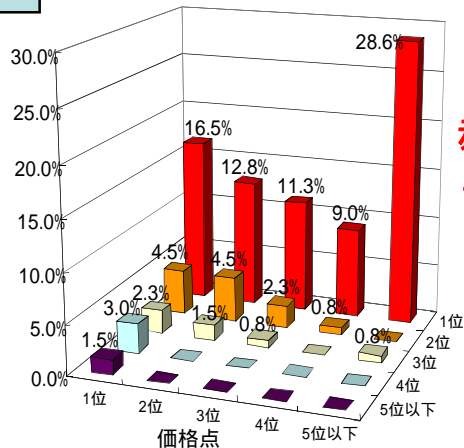


1位満点方式シミュレーション(価格点:技術点 = 1:2) 国土技術政策総合研究所

イ) 技術評価点に差をつけるための1位満点方式のシミュレーション (パターン2)

現行

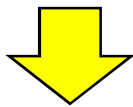
落札者の内訳(3業種 1:2) 133件



赤色の合計
78.2%

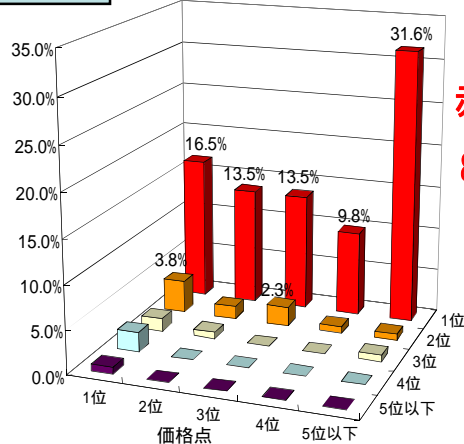
価格点1位	37件 (27.8%)
価格点1位以外	96件 (72.2%)

技術点	104件 (78.2%)
技術点1位以外	29件 (21.8%)



1位満点方式
(パターン2)

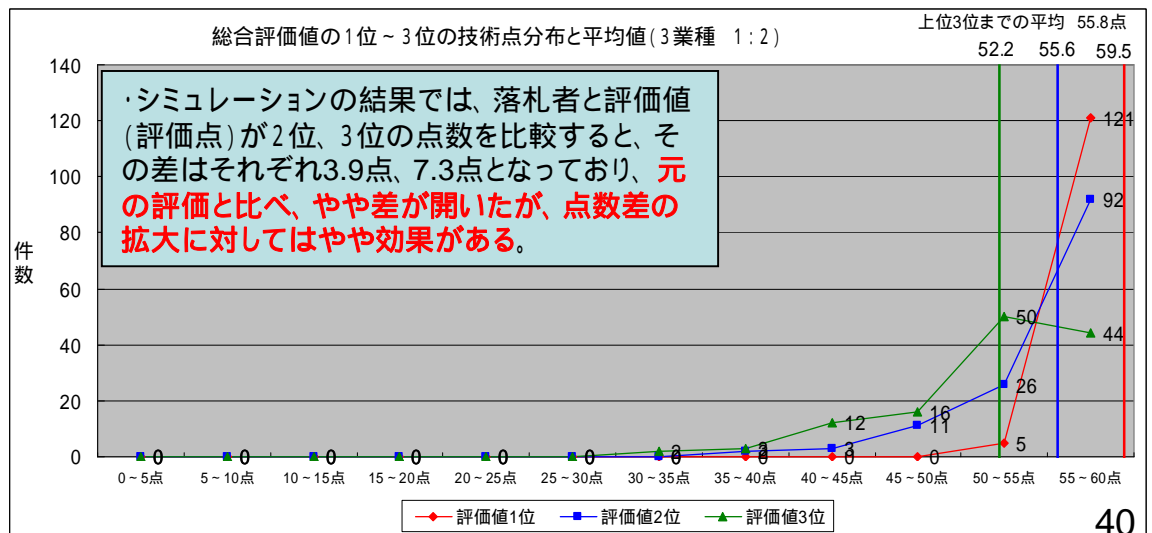
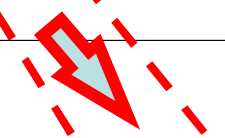
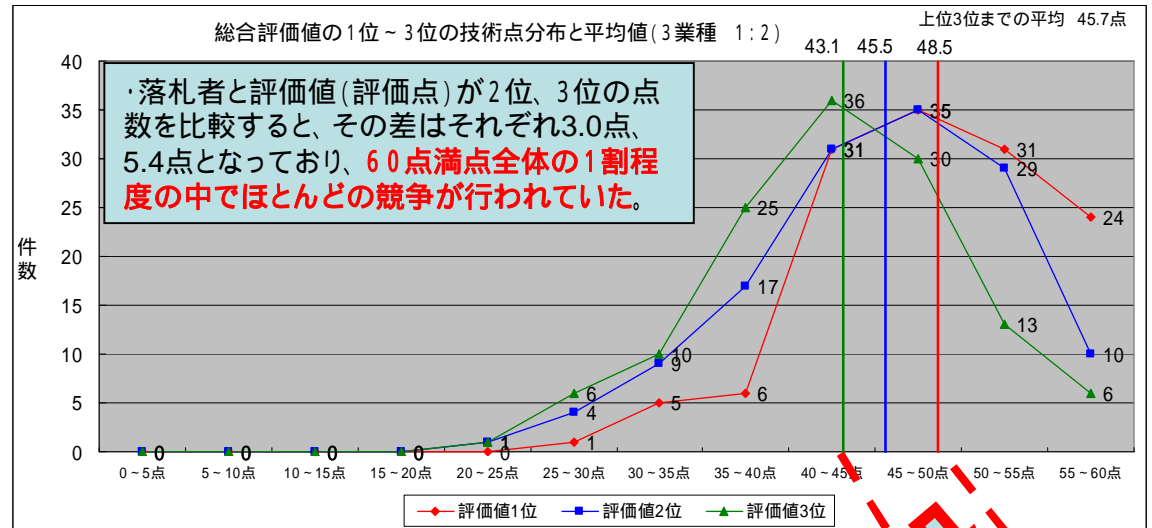
落札者の内訳(3業種 1:2) 133件



赤色の合計
85.0%

価格点1位	33件 (24.8%)
価格点1位以外	100件 (75.2%)

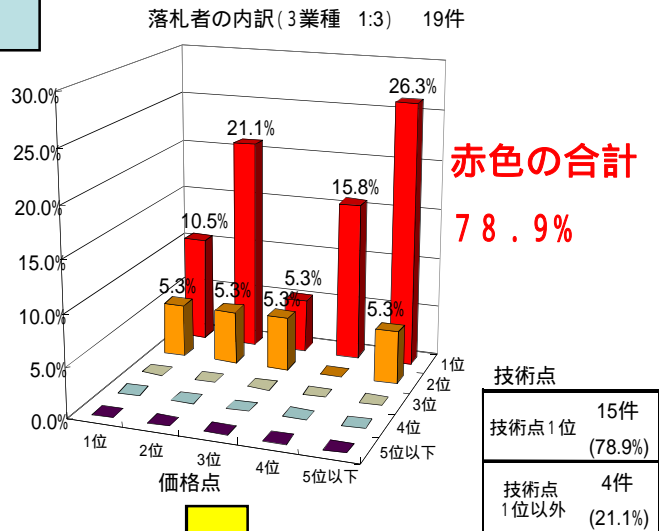
技術点	113件 (85.0%)
技術点1位以外	20件 (15.0%)



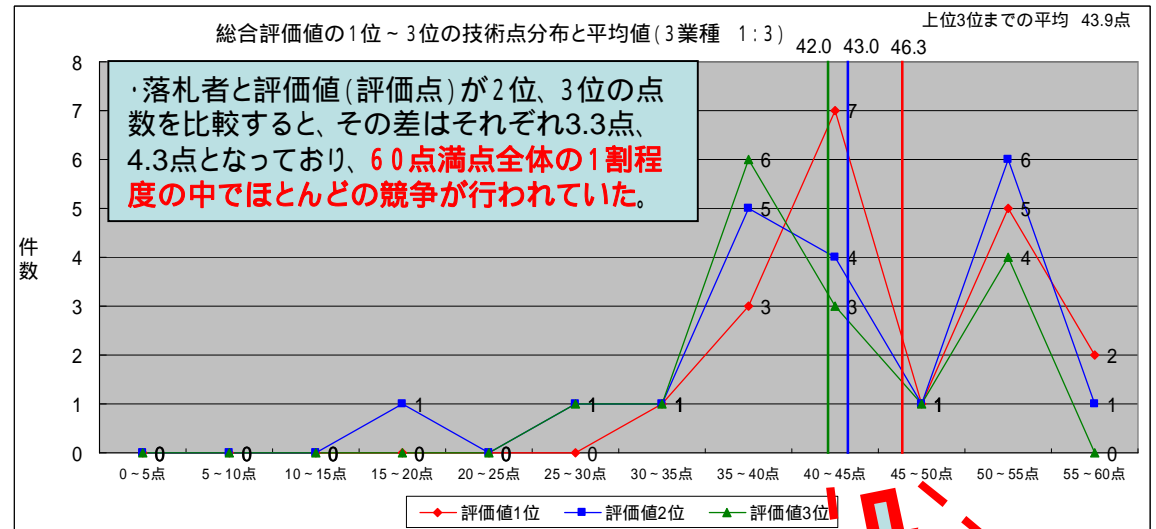
1位満点方式シミュレーション(価格点:技術点 = 1:3) 国土技術政策総合研究所

ア) 技術評価点に差をつけるための1位満点方式のシミュレーション (パターン1)

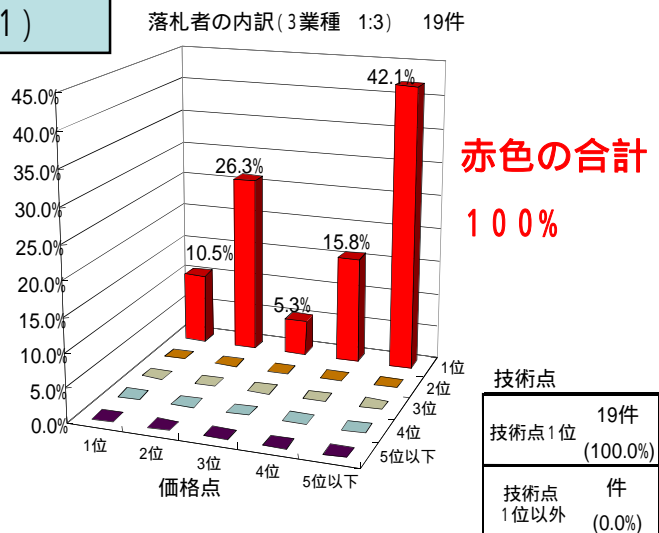
現行



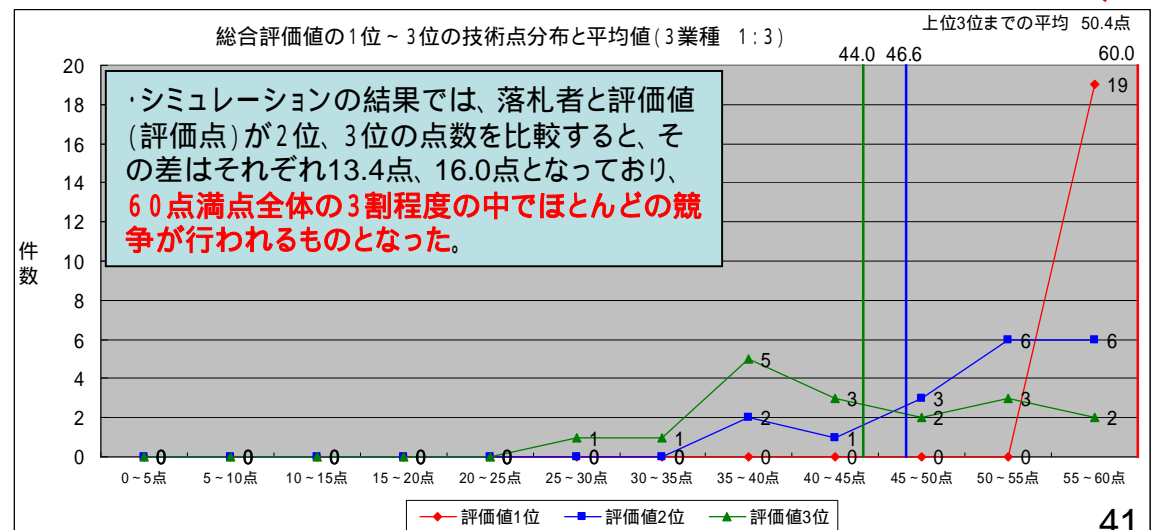
価格点1位	3件	(15.8%)
価格点1位以外	16件	(84.2%)



1位満点方式
(パターン1)



価格点1位	2件	(10.5%)
価格点1位以外	17件	(89.5%)

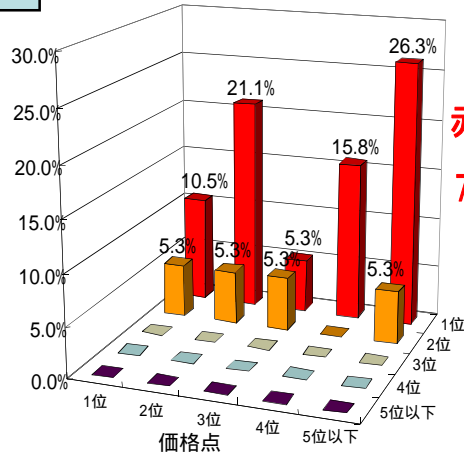


1位満点方式シミュレーション(価格点:技術点 = 1:3) 国土技術政策総合研究所

イ) 技術評価点に差をつけるための1位満点方式のシミュレーション (パターン2)

現行

落札者の内訳(3業種 1:3) 19件

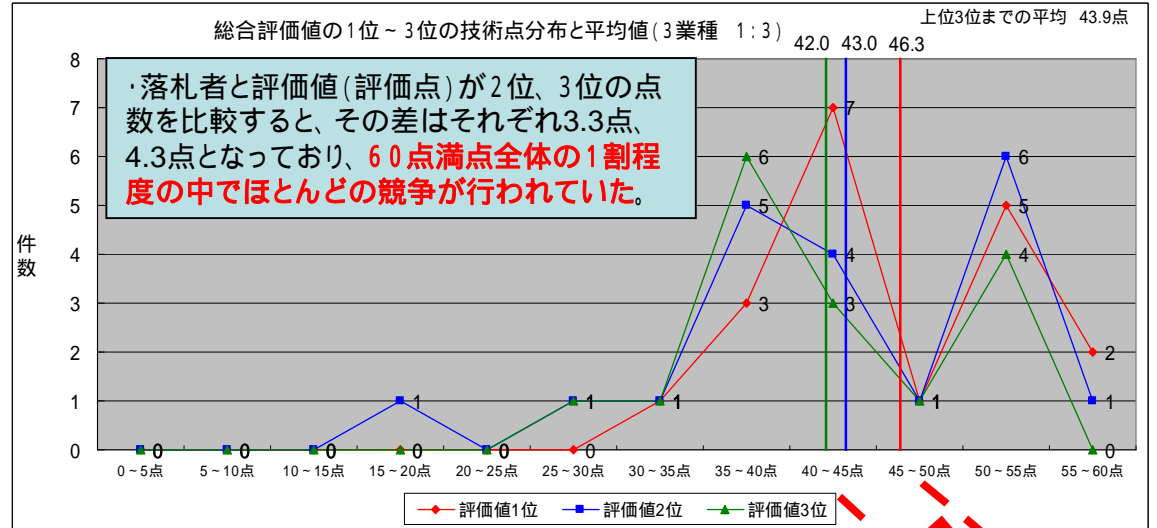


赤色の合計

78.9%

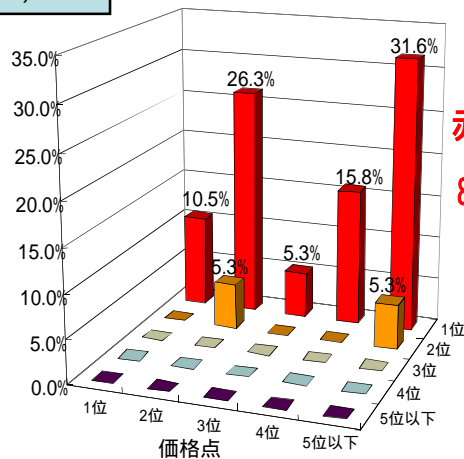
価格点1位	3件
(15.8%)	
価格点1位以外	16件
(84.2%)	

技術点	15件
技術点1位	(78.9%)
技術点1位以外	4件
(21.1%)	



1位満点方式
(パターン2)

落札者の内訳(3業種 1:3) 19件

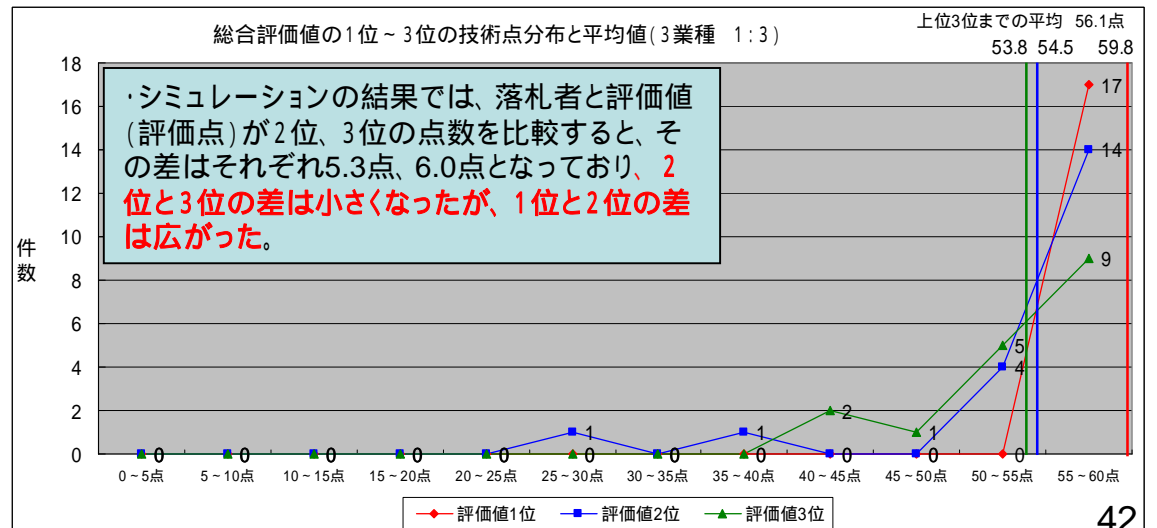


赤色の合計

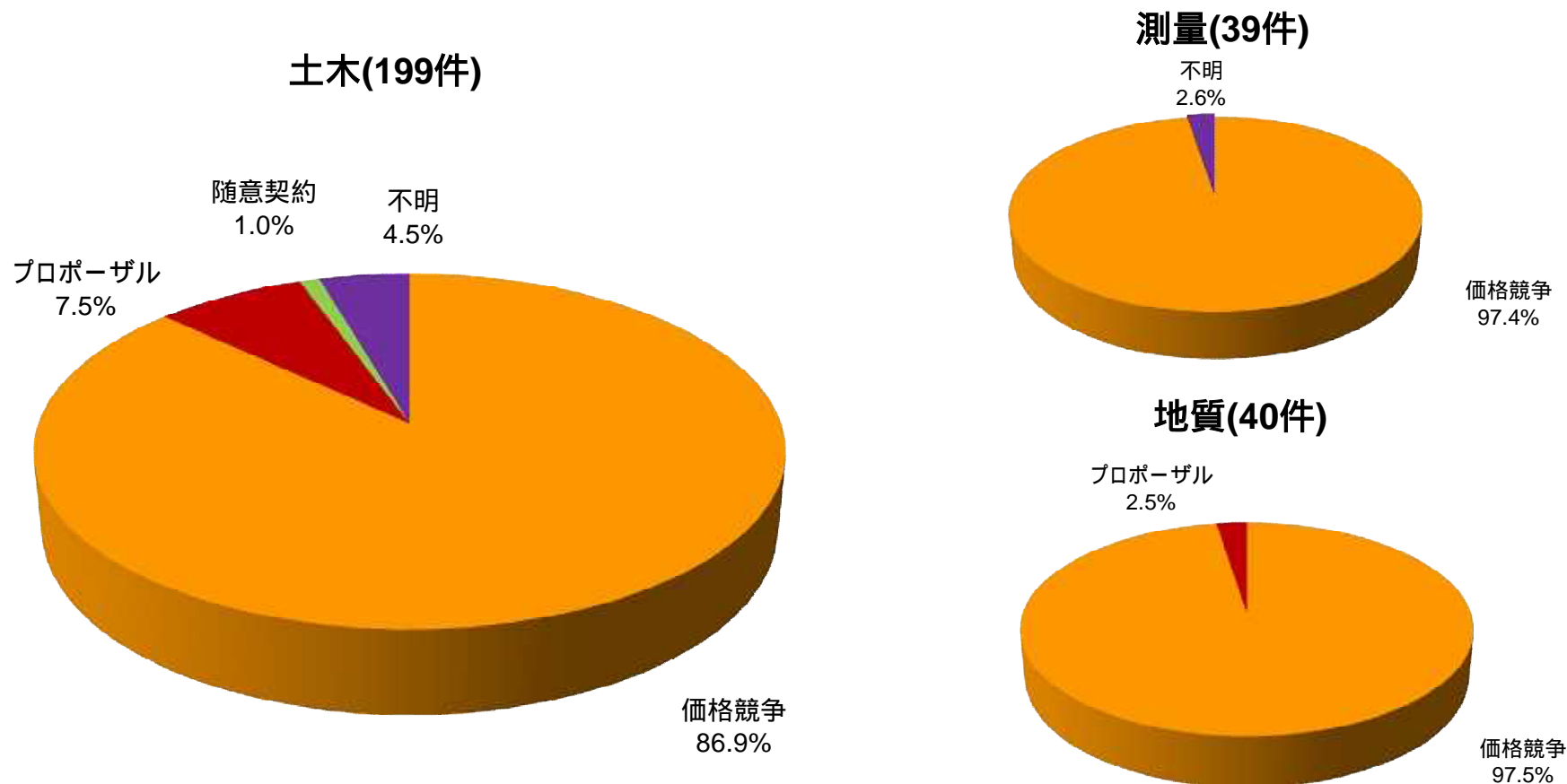
89.5%

価格点1位	2件
(10.5%)	
価格点1位以外	17件
(89.5%)	

技術点	17件
技術点1位	(89.5%)
技術点1位以外	2件
(10.5%)	



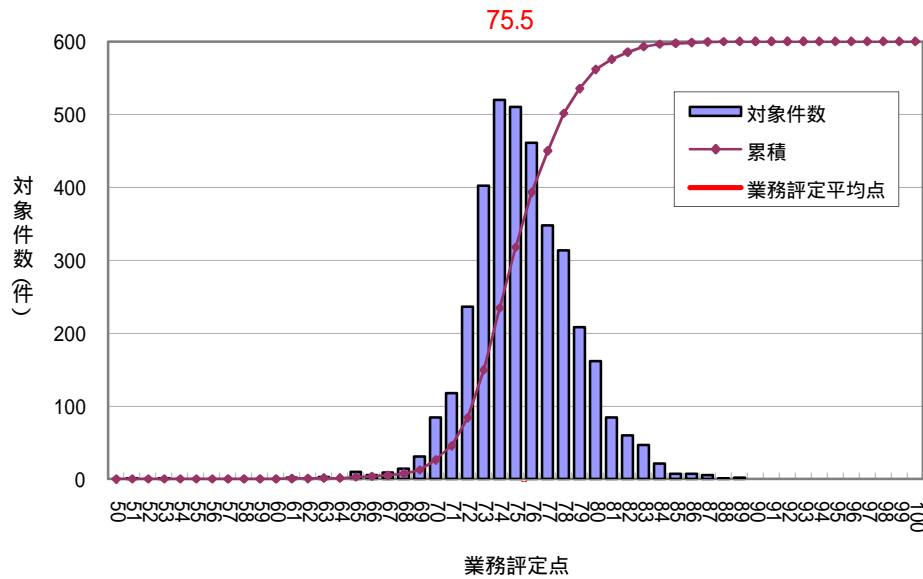
・20年度の総合評価業務(土木、測量、地質)について、総合評価の本格導入前の19年度にどの方法で調達されていたのかについて、価格競争、プロポーザル等に分類しシミュレーションを実施。
 ・この結果、20年度に総合評価落札方式で行った業務のうち、**土木の約87%、測量、地質の約97%が価格競争から移行した**ものであった。



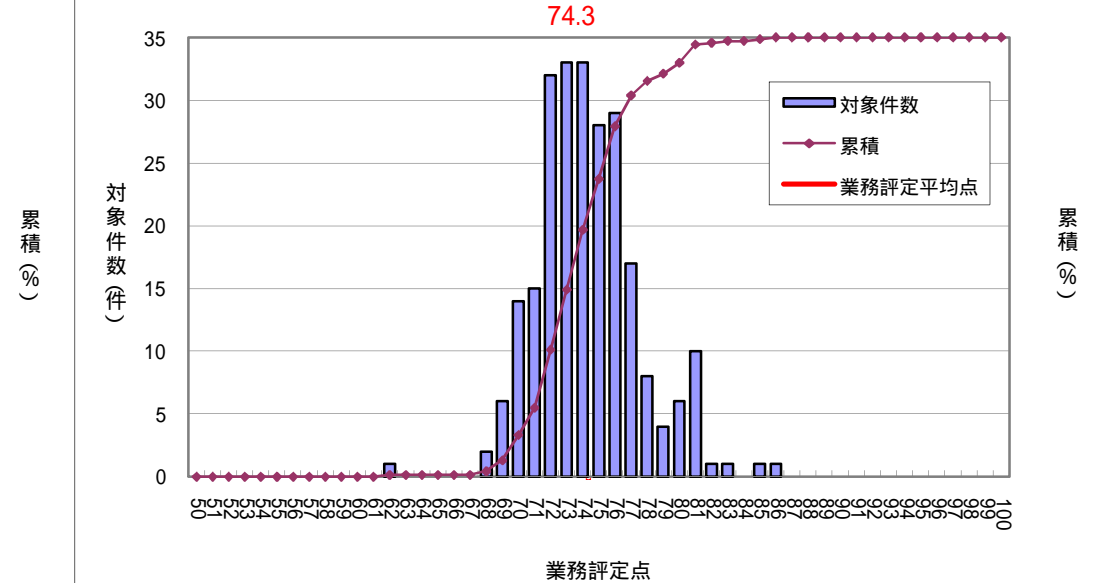
19年度に同一業務が実際にプロポーザルで調達されていたものなど従来はプロポーザルで調達されていたと見なせるものはプロポーザルと仮定。

評定点の分布 (調達方式別)

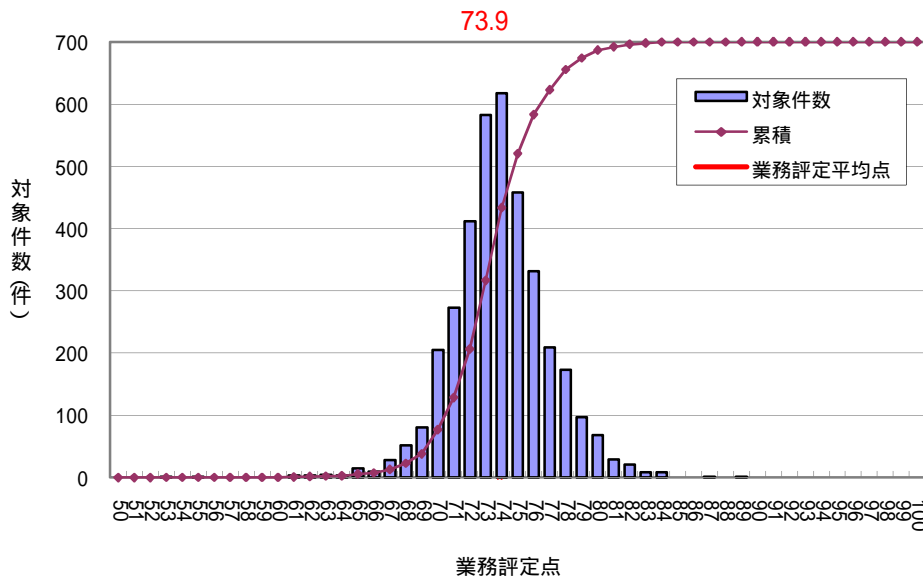
業務評定点分布 (プロポーザル)



業務評定点分布 (総合評価)



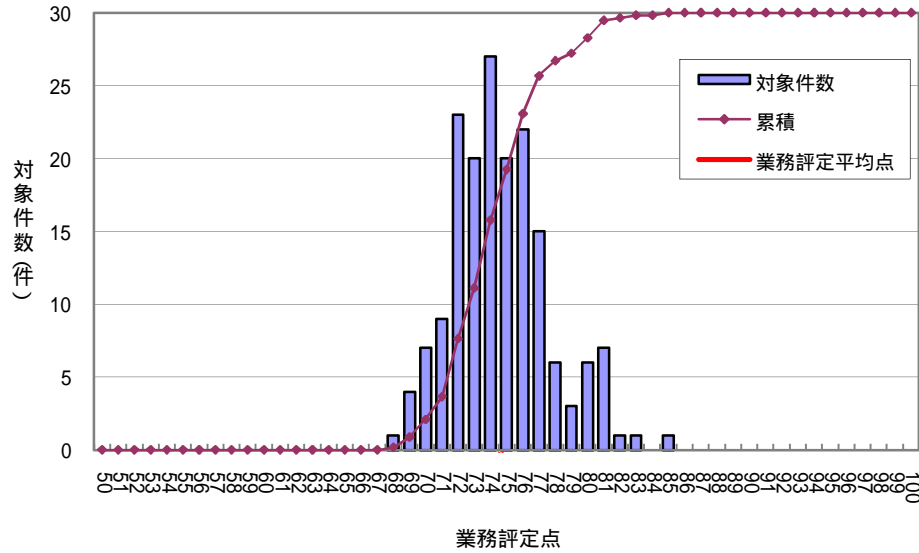
業務評定点分布 (価格競争)



評定点の分布 (業種別)

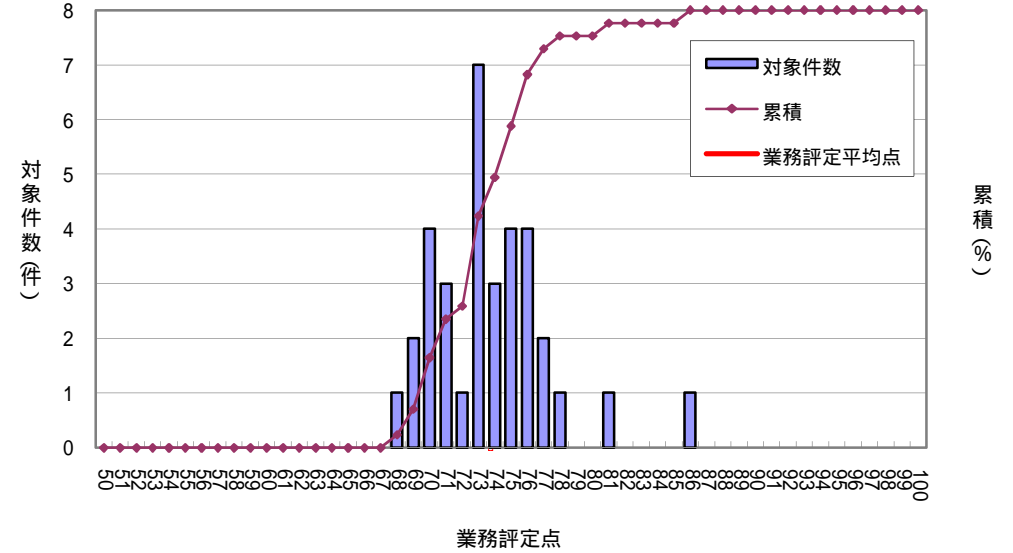
業務評定点分布 (総合評価_土木)

74.7



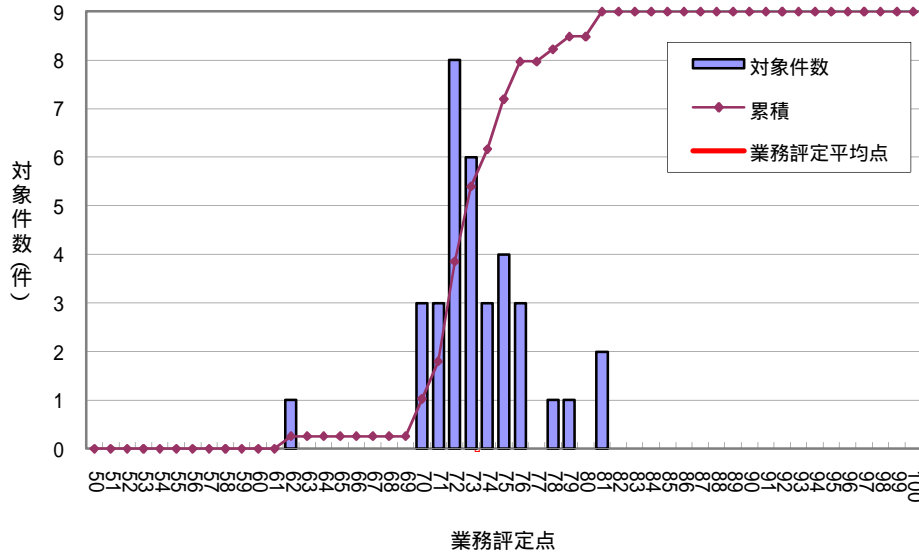
業務評定点分布 (総合評価_測量)

73.7



業務評定点分布 (総合評価_地質)

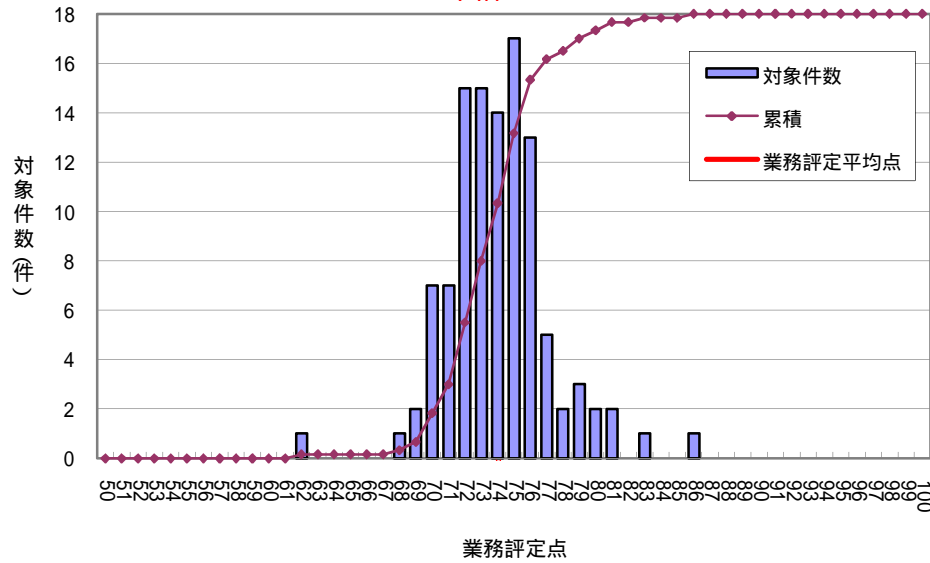
73.4



評定点の分布 (比率別)

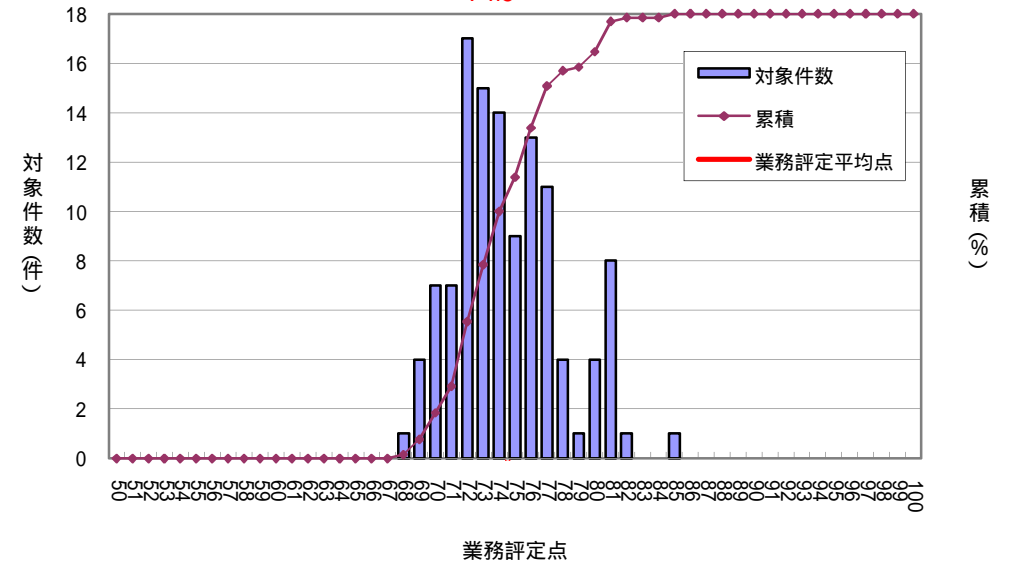
業務評定点分布 (総合評価_1:1)

74.1



業務評定点分布 (総合評価_1:2)

74.5



業務評定点分布 (総合評価_1:3)

74.8

